



卷二十七

雜歌之七

卷二十八

雜歌之六 十八丁

卷二十九

雜歌之五 廿五丁

旋歌 廿九丁

仇似歌 卅二丁

卷三十

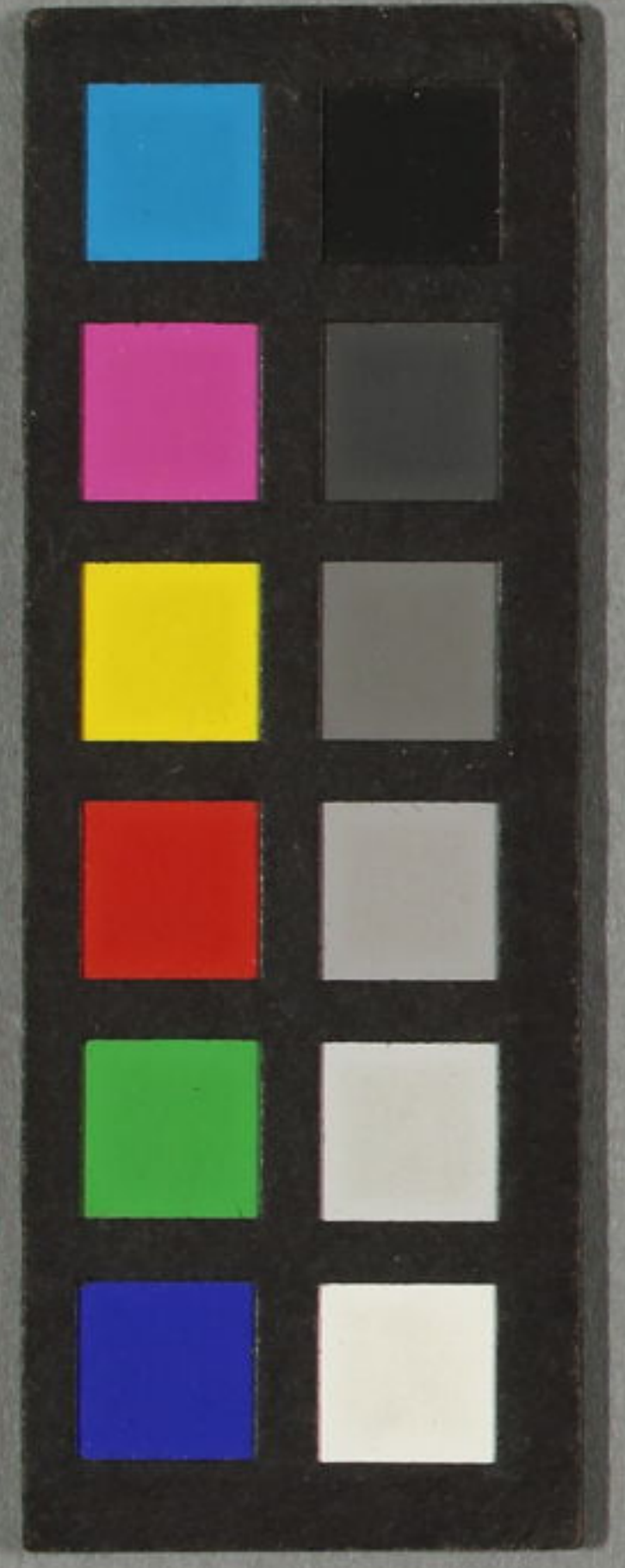
大歌所法歌 卅四丁

东歌

卅五丁

古今集卷續

六



古今和歌集卷第十七を讀

雜歌上

歌々

よみ人

コウコウノ不_レ惑_レぞお_レける天の門と後_レる子_レは_レの_レま_レづ_レく_レら

○ワシガウへ、コレをカラ_レ高_レガフツテラルロ コレハナニテモ天ノ川ノ後_レニ

船ノカイノ_レキ_レテアロカイ

思_レふ_レぢ_レち_レ糸_レ糸_レを_レお_レか_レふ_レきた_レま_レく_レを_レ一_レた_レお_レか_レを_レさ_レら_レる

○カウ心ノアラ_レドウレウチヨツテ_レお_レハ 三 夕_レテ_レイ_レヌ_レル_レガ_レノ_レコ_レリ

オホイモノ_レデサ_レゴ_レガル_レワイ

う_レま_レし_レ紙_レを_レお_レか_レつ_レま_レむ_レう_レ衣_レ袂_レゆ_レふ_レな_レそ_レい_レま_レほ_レし_レを



○イヤアウレシイノヲ何ニツマウゾイヤウナ娘シイヲガアラウトシツタラ
キルモノク袖ヲマソツトユツタリトタテト云ウテアツタモノヲイヤキツ
イウレシサガコニナセバイ袖へ中へツマレルトテハナイ

○此命ノカギリモナイ君ニ此目ニカケウト存ジテ折リスル花ハカヤウニイ
ツト云ハクモ口カチモナシニ嘆クモノデサゴザリマスロイ君ノ命ノカギリモ
ナイ云ニモモモモノカギリナニイツデモ嘆クテゴザリマス

わさ人のいもくはちいさなのおちいさうちぎとけちり

子扶云こはきなのトふおちぎとけちり
ニ字おちりてん

は家の一りくゆふふじきー其の葉みらぐーあつととどてんは

○武藏ヤハ一本ノ紫ヲアハレニ思フ也ニ 縁デ同レムサレヤ中

ノ葉ガ皆ノコラズアハレニサ思ハレル
妻ノ妹ヲ 妻ニモツテ居ル人ニ
知のお〜〜〜
してよみてやうけり かりひ〜〜

○拙者^ニガ妻ヲ大切ニ存ズレハソコ^ニユカリノ人ハ誰デモ皆^ニ妻同チ^ニ
ワケヘケテナシニ大切ニ存ズルワイ

大御をゆぢり〜〜おふつ子乃おれ家おより申細
こらよら〜〜きら〜〜めぬう〜〜のきぬのあやをおく
ふ〜〜〜

近院おのちいさうちぎと

ひろねーとくやんさーしむ言よりふうきんふとめさーしーののこ

○コレハ白ノ綾ナレバナニモ色ガナウテ 奥ノナイヤウニ思ハツヤレデカナゴザラウ

吾トウカラキ根ヘキツウ泳イ心ザデ濃ウ染テオイタ綾デゴザルモノヲ

しそのうこのねこまがみやづくもまじしそのかとし
りよこあふりりゆるんけあそふかうありとま
はまのりしごまあーびりいつりりそとてようてつうを
しきと
ゆるのたまみち

日れむりやぶーわうをいそのかきゆりは里ふもろきりら

○此上のハメグミハドコモデモユキ口タツテテウド日ノ光ノドリヤウナアレタ所

デモワケヘダテナシニ照シナサレ、ちリナバ久し引籠テゴザツテハ沙汰モナカツタキ

^五松モは交結梅ニ作付テテ滅ニむガ咳ニシタワイ、ツ目出なウガサレ

二條のきささねのふあのみや^{作母後孫}をむるしきむる時

しあわつしあふまうじ経ひろの日よめ

なりひのねん

大京やをーんねんもろくさーハ神代のももおひひ出ろん

○カヤウニ西子孫ノ最系氏息所ノ東宮ニ母儀トシテ侍ル奈津ノアルナレバ

ハ大原也ノ神モカヲ神代ニ天照大神ノ神ハ勅定アラセラレタ

ルチモ今日コソ思名出サテハ満足ニ思名ラテチヤラウ ^{けちの説} ^{あけし}

五葉のまひねとをさよめ、 よーみ子のむひさこ

天つ風やのうらひぢらあきとらよをとのむきがしき、りーとくうむ

女はけりてしひたるよる きんまいわりし

かゝらしとみやうかゝる色のしらなほきこひちよよねさばなりうむ

○女中タナメツタニワシヲ笑ハニヤルガ けをリ形コソ深クオクノ朽木ノ
ヤウナレワシモ 花ニセウナラ心ハ花ニモナラウワサ

かゝくぐふ人のあふまうれとるるときたはろし
きらとときせりきる改わーたふうきとてよとくき

きこのみもはつた

塚のふれよるのなをうすきとてうつりがおくと山あひぬるかな

○ユフオカリヤメい夜ハめくらナバウスウハコサルケレウツリガサテモア濃ウニ
ホヒマスルヲカナ オタニチモノホド感心致シタ 飯材まらーおけよらし

影ーらび
よみ人あーむじ

おそくいづる月やもろくねあー川の山はあつてもをーむづらり

○サテもくアオウ出ル月デユサレヲカナ コハナデモコチラデは根ニ待ッをリニア
東ナウアチラデモ山ハルヲ人カ皆惜トスエマスソデコチラエエサテコヌデガラウ

コガあしほちるぐさめらゆつしし形やををらてゆよては月をとんて
○今夜はラステ山テ月ヲスレバサテくサヤカナ月テステ居レバトコトモナ

ウおガナレウチツテキテワレバウモ心ガハラサレ又けきをををまてとり山の名
ふかりともふわび又あうあもかりしはあはいづとあとも回すあて
あのをまへん月をまばらぶおかしをかしーり色あていたぐ
ひうらとだまををまてゆうとてあうあふよあいのせい

なるものなり

大くは月とも見せしどきどきこのつねのねがいのせいなるもの

○タイガイナラモウ月モアツリ美熟スミソコノスル月ガサアノタラト

ツモバ人ノ年ノヨル年月ノ月ヤ ちよてこきどきこのつねのねがいのせいなるもの

ホコレガアツキヤとツツとちよやとのハコレガアツキカとツツと

このまかののせいはいふゆも雅なふかののせいなるものなり

ふゆも一ふゆふゆのせいなるものなり

月おも一ゆとて凡に内躬眩がまうできたなり

なり

紀行ゆき

かみこきどきとくとつから月影のせいなるものなり

○月ハカウシテアテ居ツ、モマアウルクシウ思ハ、カコ、ハカリテハナニドコ

ヘモカシコヘモ親ノユカヌ里モアルマイト存スレバサ ちよ格モツニチモノカシラヌ

。よ林まなしゆニる。ふまどからくもあつるのせいなるものなり

はふ月のせいなるものなり

ゆふ月影のせいなるものなり

○月ハニツハナイ物デ山ハデナケレバハヌモアツヤト思ウタニ アレ山ハデナイ

アルハ水ノ底ヘモカタ コレデハニツモアル物トスル

影ふ

ゆふ月影

天の月影のせいをとてしやり純はむりせむべ月をたぐら

○天川ハ雲ノ水スデ流ガ早イニ依テ月ノ光ガサシラヌモあラスニ早ウ流ヒテユク

あうぎしして月のうらやみふりてはけりしをりてぞ恋しかりける
○下ダ見タラヌノ二月ノカタルソノ山ノフモトデ見テ居ル六月ノ入ル
山ノアキラウラへ行テサヌタイワイ

こもたりのみよれかりしをりともふまうりてやどり
ふくりりてよむしよほのこ物徳をきりふ十日月も
かたれうむしあたるをりふみこをひくくちんオクハのこむむ
とあうまばよむはりり
おかりひりの船

わろぬくふまぎきも月れうらやみの山のをわけていさげもつらむ
○アノ月ニダヌタラヌニキツウ早ウマアカケルルカナアノ月ノ後ル山ガ
ワキニテタイニテ月ヲ入レテクレバヨイニカウテ八月ノウカカリチヤナイゾエ

田村のみづどのゆめふ新院テリウタふけりりゆきしきいのみこ
とくあやまちありしひて新院をたしむむしうらと
そむやふれバよめる あふ教伝

大に成てらゆ月しほりれぞやかくせどもゆりのきさくふ
○ニヤラ照テイク月が陰イニ依テナホ雲ガタラシテモウチテモ光キ共セヌワサテ
影しらび
ふしんあしご

あうぎしして月のうらやみふりてはけりしをりてぞ恋しかりける
○上モトカラ心ハナエボウテモワスレラヌモノギヤ

いしんの野中のちちぬれれど本はうらとある人をとくむ
○ムカシキツイヤウカチ清水ガヤト云テ名ノ高カク中ノ清水ハ今ハモウ

ナヌルウチアルヒソレデモ昔ノウラ知テ居ルハサ今デモ汲デテス
イヤレのまじれさびすけやー（？）もはるる（？）あり

○一三ヨイ流バカデナイ、おらが子賤イ者、テモ夜ハ男ガリハアツク物ヂヤ
今ももわも我もむがー（？）山さうゆく（？）もの

○今コソハヤウ二年モヨウテジボフラスレ、オレモ昔ハイウカドノ男、デ
繁昌ニ暮シタ時、所モアウテキタモノラ、ア、クチラニイフヤ

世中ふぢりぬ、わをけのふれなぐ（？）もの（？）とこれとけり（？）
○ナニテモスルウチテオト、只タテノタト（？）六津ノ水ノ長柄ノ橋ト云ヂ
ヤガ、中ニフルウチテ、ニウタ物ハ、其長柄ノ橋トオレトチヤワイ
これ多（？）や（？）つ（？）ひ（？）さ（？）の（？）れ（？）と（？）お（？）の（？）と（？）ち（？）ゆく（？）我（？）り（？）つ（？）も

○篠ノ葉（雪カッモツテホガオモサニ）ホカカカ多イテユクヤウニ、オレモハヤウニダ
べく年ガヨツテ衰ヘテタガ、昔男ガカリクの時、ハア、イウツク、デアウ多イ（？）
大河（？）のり（？）れ（？）ト、あ（？）ぬ（？）れ（？）ば（？）ぬ（？）し（？）と（？）さ（？）び（？）か（？）る（？）人（？）も（？）一（？）

○大荒木ノ多クモ、キツウ多クテカラス、馬モ喰タカラズ、前々モナイガ
人モツモナイヤ、年ガ寄テカラハ、誰デモキラウテヨリウカヌワイ
又ハ、け（？）し（？）け（？）し（？）け（？）し（？）の（？）を（？）お（？）れ（？）ト、あ（？）ぬ（？）ま（？）じ（？）バ

か（？）じ（？）の（？）ま（？）じ（？）の（？）を（？）お（？）れ（？）ト、あ（？）ぬ（？）ま（？）じ（？）の（？）を（？）お（？）れ（？）ト、あ（？）ぬ（？）ま（？）じ（？）
○シバラモトラスニ早ウ過テ、テラ年ヲ、早ウ多クト云テ、ハ、ギ（？）テ、シ（？）テ
ワ、年ノ程ヲカズ、テ、ア、バ、今年ハモウオレモ、キツウヨイ年ニ、サ（？）ツ（？）ワ（？）イ
初（？）の（？）白（？）れ（？）と（？）ふ（？）つ（？）け（？）し（？）ら（？）ぬ（？）ぐ（？）、終（？）れ（？）よ（？）上（？）の（？）白（？）れ（？）つ（？）け（？）し（？）と（？）

○鏡山ト云山ナラ人ノ影ガヨウウツルデアアラウホドニ^四久シウナツタ此
身ハ^五年ガヨウタカト^二トヤタキヨウテ見テユカウグ

けさあゝ人の心もく大もとのらぬーがご

ねり^三の影のこみとを思ふとこゆる所なる
アひ^三もづくきとて阿もなうりもつ^三をゆるれど
志^三をゆるに^三れみとありより^三の^{キツナ}みきて^三ををり
ゆ^三でき^三り^三ほきて^三えま^三あ^三づ^三ね^三くて^三あ^三ら^三う^三こ

おいぬもさぬれありし^三い^三ゆ^三く^三え^三き^三り^三き^三て^三美^三から

○世中ノナラヒテセヒトモガシ又別モアルト云^三ナバ^三年^三ヨウ^三テハ^三時^三二^三日^三モ
シ^三子^三バ^三イ^三ヨ^三ク^三君^三ニ^三ドウ^三ク^三を^三タイ^三コ^三ナ^三上^三右^三ニ^三一^三と^三次^三身^三と^三ヤ^三ル^三し

如左

ねり^三の^三影^三の^三こ^三み^三

そ中ふさ^三ぬ^三お^三の^三あ^三く^三も^三づ^三ち^三よ^三も^三と^三教^三く^三人^三の^三子^三れ^三あ

○親ノ壽命ヲア^三ンドウ^三グ^三キ^三年^三モ^三ト^三形^三フ^三子^三ノ^三タ^三ニ^三世^三中^三ニ^三ド^三ウ^三グ^三道

シ又別ト云^三シヤウ^三ニ^三タイ^三コ^三ナ^三
○世中人の子と云ハ親をむしてはまのりよん
人のおやと云ハ親をむしてはまのりよん

寛重^三時^三き^三の^三ま^三の^三合^三は^三が^三い^三の^三む^三の^三や^三な

白雲のハき^三り^三け^三か^三く^三心^三く^三も^三あ^三ふ^三き^三る^三か^三耶

○オレガ頭ハマア雪ノイクモ^三く^三ツ^三モ^三ツ^三タ^三ヤ^三ウ^三ニ^三ツ^三白^三ニ^三ツ^三テ^三カ^三へ
ス^三モ^三キ^三ツ^三イ^三年^三ノ^三ヨ^三リ^三ヤ^三ウ^三カ^三ナ

ある^三ド^三序^三め^三る^三人^三の^三ま^三が^三い^三を^三の^三こ^三ご^三も^三あ^三や^三こ^三き
給^三ひ^三あ^三や^三み^三あ^三そ^三び^三者^三け^三ほ^三い^三で^三ふ^三つ^三う^三う^三の

きしほ

こしゆきの船長

おいぬとそねとて我をとせえまじむおいぬとバクほふらばきしほの物

○我身ラ年ガヨツタト云テオセニフクニ思フタツフ今日思フテスバ年ノ
ヨツタハウレシイコトヤ四カウ年ノヨルニ生テ居ズバ今日ヤウナアリガタイ
ふニアハウモノカイ年ガヨツテ生テ井バコフセえまじの流石によし

歌よるべ

よみ人志しき

ちりやがほう海のみそしるおまげしむあつととよまき年のいねれば
○一ウ治ノ橋守ヨホカノ人ヨリハ其方ヲサオレハフビニ思フオレト
同シヤウニ年ハ夕老人ヲヤト思ヘバサ

おんもえくくねのねのねのねのねおいくよへめく年

○住ノ江ノ岸ナ松トモハオレが見キタツテモモウクシウナルガツヨリニ
始メカラハイカホド年ヲ終タコヤラ定テキツウクシイコデアラウ
はるのきしほのひえね人なむいよくよる終しとくはまきしほ

○住吉ノ岸ノ姫松ガ人間ナライカホド年ヲ終タツト問テえヤウニ
梓ラツとべの少ねあうせりう万代このひてたひとまねらむ

○一此破せノ松ハ最初ニ夕子ラウク時ニ定テコレカラ後万年も
オヒシゲト思フテ時テオイタデアラウガハ昔イツ代ニ誰ガ為タコヤ
け小ねハたねちひさねをのちまはけいばそハた馬と駒とひ
猪とわのこ麻と麻子とらへんゆとれとのゆえら古書よるゆ
けまわく人のそく橋本くす終がし

かくしついでとやつてさむらひの尾とよはせるおきくふ

○オレハヤウニ年バツカリヨツテ今迄何一ツコレグトキテシダニタヤ
モナイガモウハをリデ一生ハテルデアラウカ 高イ山上アル松コソ何
スルモナニクアルおナレ オレハ其松テモナイニサ

名系おきくうぜ

はもともともくふよとむいさのねもむいさのなみりぬくみ

○オレハヤウニキツウ年ガヨツテ今アモウ自ジゴアヒノ友モ子カラナイガ誰ラマ
ア相手ニセウグ 山上ノ松ガ年久シイおナレド ソモ昔カラ友デケレバ
相手ニオラヌモウ松ヨリ外ニオレガシラ年々タおト下ナイ 樹伐らし

よみ人あしんが

○^{後。は}海のおきのまの志をのひさうかよ味の清ぬめがくよる方もあるし

○オレ海沖ノホアヒ浮多沫ヤウチ物デ消テ有ラドコモヨリ多西モナイ
わつものおぎよませるふとのほもてゆさあもむりぬ山

○浪ノ白ウタウハトット花ヤウニエエガソレデアラ海ノ神様ハツツリク
カザシヤトイソソニア淡路島ヲコレカラ見バ アレマア其ツ白ナ浪テ
クルリウトトリハニテテウトテウヤウチサテモ見るナクニキチヤ

おきくおしおぎよふさせるとはほのうふそはもと又おほの流あもぐ
またの系よせくはほのまをくもえすくおしおきおつほ

○は玉津島ヲ見バほノサヨセルヤウスナド せうく面白ケニキカトドウ
ゾなぐモオテスタイトコゴキ

○よはまの島ハ三ノ実録ハ玉出島ト云ふ
つやおしおハ玉出島ト云ふ

なふはげのちやみのりしつた衣あはけはふたづつあま

○ハアホガミチテ名サリチ 雑波^三 夕こく嶋ニ鶴ガトビサワイデ鳴ク

あまがいつこのあまはゆるるあまやましよりこえすうで

きてよすてつるきき ちよあまがゆき

手取思ひおきんのほふさくづのあまもどらあしだふきく

○拙者ハキ指ラ思フテ忘レズニげとニテ^三 ありテホウタレバコソ^五 心

ふりナト云フナリトモサシ ちよ船ノ方カラトテハ一向ハ夜子モトサレヌ

サテクキツイカミカギリデゴザル

かきし

ほし申さ

あまのほたりけをのほね乃あましとまことまらほりつと

○一 アノ言昨淡ノ松ソノ松ト云名ノをリニサ拙者ハトウカラキ指ラ思待ヤシワ

なふなふさうれりきりあま

雑波があまの玉露をかりそめのおまをぞ我はあまあ

○雑波ガタノ風景サテク面白サニニバラクはカニ返ぬシテ ちよあま

玉露ヲ菊ル海士ニサオレハナラウヤウニ思ハレル

あひをねるあまのほをふゆうでるにまみ

はるはーま

ほをさしつるあまもあまのあまを人まね草あましりあま

○住吉ヘコサツテモシソコノ海士ハ住ヨイ石デゴザルト云テキカス氏 必也居ハ

シサツシヤルナヤ住吉ハ左而ノ人ヲ忘レルト云忘草ガハエテアルト云テヤホトニ

なふそくすりわりのとれた女はく時をさあり

あひてうせらる けしゆ記

あふよとたこの時をさゆけはなまはかかれぬあまをさあり

○雨ガフルニヨツテ 装ト云名ヲ形モウ思フテ け経波ノ田装ノ時ヲ今日ト

ホツテチバ所ノ名ハ装ナド名ニ身カ強^{カク}レヌモデ 雨降ノるハアヌおテゴル

流々西川ふおを^{ハハ}アソバサレタ日 たりりる日はるよふたて

アソバセアソバサレタ

わーたぐのなをららと吹風ふよをさうーぬ流々くぞとん

○川ハタニ白イ鶴ノ立テ居ルヲワハ風ガ吹テヨセタ流ノカラスアサカトサスタ

子林をさぞてわーららハハき流といりまをけむの白きふ

よれをさあも白鶴くけり程おれ妻き考けり

申勢のみこ乃ぬれ流ふ船をつりてあーいさあ

てあまびる日法をけらんふおをーはたりりり

考りつーいおりおんーまふいしをるをさふまて

いそま門 伊勢

水のうくわつる船のまらーバあまをさありーいそまー物を

○君ガ水ノ上ニウイテアル船テアラセラレウナラコガ船泊リマス不テサゴサ

リマストト上テヨキハハあまーレセウモラ ぶれえはう上のまは得めて

かーいーいあまをさあま さまの法師

みやこまで釣きかえりかーいーの流の流をけて風をひきき

○京マデテテ名トホツテアル有琴下云和ヲ来テ見バ風ガフケ浪ガ
立テ音ガスルスヤハカラ琴ハ浪ノ系ヲステ風ガサ^{ヒツ}保ノキヤワイ

布引の^シれま^シと^シあ^シ 左系行^ニお^シ胡^ニ長

こきち^シれ^シま^シの^シま^シひ^シら^シひ^シお^シき^シし^シあ^シう^シは^シ乃^シ後^シう^シぞ^シか^シら^シ
○ハハヲスバ^シ水^シト^シテ^シ走^シル^シガ^シテ^シウ^シド^シ玉^シヲ^シ緒^シカ^シラ^シコ^シキ^シチ^シラ^シサ^シウ^シナ^シガ^シハ^シ玉^シヲ^シヒ^シロ
ウ^シテ^シオ^シイ^シテ^シ借^シリ^シス^シソ^シニ^シテ^シワ^シガ^シ身^シノ^シウ^シハ^シカ^シヤ^シウ^シニ^シハ^シ後^シニ^シセ^シウ^シト^シ存^シズ^シル

布引の^シ浪^シの^シも^シや^シは^シし^シく^シく^シの^シま^シり^シま^シり^シて^シあ^シま^シみ^シを^シ
ふ^シゆ^シふ^シま^シを^シ ね^シり^シひ^シの^シね^シは

ぬ^シき^シみ^シぐ^シる^シん^シと^シり^シる^シし^シら^シの^シま^シね^シく^シも^シち^シく^シの^シ神^シの^シま^シり^シぬ^シふ
○ハ^シマ^シア^シセ^シバ^シイ^シ袖^シハ^シツ^シク^シレ^シモ^シセ^シヌ^シホ^シド^シ 玉^シカ^シア^シヒ^シタ^シナ^シニ^シダ^シウ^シア^シチ^シツ^シテ^シクル^シト

カナコ^シロ^シハ^シナ^シニ^シテ^シモ^シツ^シナ^シイ^シテ^シアル^シ玉^シヲ^シ浪^シグ^シ結^シヲ^シト^シイ^シテ^シバ^シラ^シク^シニ^シテ^シハ^シ浪
ノ^シ上^シノ^シ方^シカ^シラ^シチ^シラ^シス^シ人^シガ^シサ^シアル^シサ^シウ^シナ

よ^シし^シれ^シ浪^シと^シん^シそ^シま^シあ^シ 兼^シ均^シは^シ師^シ

た^シぐ^シと^シあ^シふ^シり^シで^シし^シき^シる^シ布^シを^シや^シら^シは^シへ^シく^シる^シね^シど^シき^シる^シま^シら^シき^シ

○ア^シノ^シヒ^シツ^シハ^シツ^シテ^シサ^シラ^シシ^シテ^シアル^シ布^シハ^シ誰^シカ^シキ^シル^シモ^シニ^シス^シル^シ布^シチ^シヤ^シカ^シ ツ^シト^シト^シハ^シカ^シタ^シカ^シ
ラ^シス^シル^シガ^シイ^シワ^シス^シテ^シモ^シソ^シノ^シミ^シノ^シア^シウ^シテ^シト^シリ^シイ^シヒ^シ人^シモ^シナ^シイ

浪^シを^シと^シれ^シち^シ布^シウ^シて^シよ^シみ^シら^シる^シ次^シら^シる^シま^シも^シ目^シト^シ

歌^シら^シん 糸^シの^シ師^シ

浪^シの^シま^シの^シあ^シる^シ糸^シを^シり^シた^シめて^シ山^シを^シも^シち^シり^シて^シき^シぬ^シと

○ハ^シ浪^シの^シま^シの^シあ^シる^シ糸^シを^シり^シた^シめて^シ山^シを^シも^シち^シり^シて^シき^シぬ^シと

少時ノ衣ヲ織テ着ヤウニ居ル後イ糸ナヤ 出家ノ山アル年ノ衣ニヨカロワサテ
新門ノ向ニテ 湖の中ニて ぬきぬき

いせ

ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき

○夕子モヌイモセヌ衣ヲ着クト云昔ノ仙人モ今ハ居モセヌノニナニタニニ
山姫ノアノヤウニ布ヲサラシテサレヤラ

朱雀院のみじ布川の湖のせむしとてふむ月入
ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき

ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき

○ヌシモナウテサラシテアルノ布ヲオレガ物テハナケレド スレガナケレハ

オレガ心テタナバニ借テ進セウカイ 今日ハセタヂヤニ

ぬきぬきのぬきぬき

ぬきぬき

ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき

○タキツテ居ルノ湖ノミナカニガ 久シクテ年ガヨツタサウナワイナ 皆白髪ガ

カリテ黒イ筋ハスチモナイ カウキニミナカニテ髪ニテチヤゴエ サウツルカノ

ぬきぬき ぬきぬき

ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき ぬきぬき

○雲ハ風ガフスバ風ノヨラウツテチヨモリヤガ 風ガワイテモ同じ所ヲサラスニイウ

テモ日ギウニアルアノ白イ雲トスル六昔カラ居ルはノありテサゴサルワイ

田村の伊時ふ女をうけがひあてし屏風の志
けうんーりふはあちばりりささるあし
これを影さそふあしさのぬふあちせし
けさばよあふ 三條の町

思ひをくぬのうらのたきまのやあつーいそれどもあすしぬ

○人ノ思ヒヲヨラニテ思ヒテ居リヌルは内ハ外ノヤウニキカリヌ物デゴザリヌルガ
け繪ハ外ハサウノ内ノ遊ギヤカ致ニシテ落トハスモスド子カラ音が
屏風の影さる花とあふ つらゆし
あそりーめりほうちをさしてそはあまねやあつひあふ
マセヌ

○咲ツメタ時カラシテハウチツヅイテ世中ハイツクモ去チヤカシテ此花ハ
色ガジヤウチウオナシトチヤ

屏風の志りーよと合をそしあきき

坂上、ささのり

かまてほそと山田のりねれこねいきておきこを後さおのうきれバ
○オレハ秋ガツライニヨツテ 一二 はヤウニヒクト後ヲ流シテ泣テサクラ
スワイ かりてふ雁とこをて、たの縁とをらし。

古今和歌集卷第十八巻

雜歌下

影多し

よみ人しらん

世中ハナク小うつひらきしつて山まのよる濁ぞり六瀬ふらき

○世中デハ何カイツモカラヌ物ヂヤゾアノ花を川ヲ見ル昨日デ淵デアウタ

不ガサ 今日ハモウ浅イ瀬ニル川ササウヂヤスレヤナニデモカラヌ物ト云ハナイ

くすもわじぶあををまがもかたつまのうらふ思ひみぢり

○モウ生テ居ルアヒダモ何ホドモアルイハオラ 海士ノ川ル藻ノ乱レタヤウニ

ナゼニオレハニア此ヤウニドウカウトイウニ苦勞ニ思ウツモウワツ

カノるナレヤ ドウデモカウデモヨイナチヤニ

厚れらるる家の軒方をもとむのこありひつとせぬよの中うらさ

○二三 夕ハレル時モナニ常住居ゴトノウキルト云トモナイハ世中ノウラサウイノ

小中たつひのねた

あつらひとそとむいれさくふほあれがら歌うをぬあさう世中

○井ウチヤト云テノガラレモセヌ世中チヤニナゾトキトツアハウイ

世中ヤト云テナゲカル

かひのうきにゆきし時あまかりのかりきくふ

はるしき

をのけしむた

あまかりのかりしわくとお国は保くしひてまうのが

アツらひらさくさるふまへりハきりしねれども中ふ例ふ

たぐりそハ古ふぬつてけ糸のひの何づらひと云はるら
 きざりし名傷の河ちやもあふりてまかりそとらるる今
 此系とらりての河おほきであふれなるふまれかきこはるの事
 上下にわたりびあうとゆくとあふるといふ事とてさうで
 とつて一移り例と考へて然しあふなき河と
 みや二人いふやとらび山とていふぬぬちあふれづとていふ
 ○モシ京ノ人がワシガウラ ドウチヤト子タナラ 山ガサニビウチウ雲
 ハヌヤウニ心モハレヌキイハニ難義ニ思フテ居ルト云テトサレ
 ぬんやのやとてむでうみくものぞうにありてあがこえ
 よハえつたどやといひやわりのくろくろふと云々

サけわづめの流るる

小中 小町

まびぬもバカとていふ糸の根を種てきとてあつたつとていふ
 ○ワタシハモウウイツライ身デ 教義ヲぬテラリマスバ浮糸ノ根ガナ
 ウテドチデモ水ノユク方ハサワヒテテラヤウニ 注デモサウウテクルル人がアラ
 ウナラ ドツチヘナリ尼糸ヲウトサ存ジマスル

野一らび

あつてあつてとていふ中とていふぬぬあつたつとていふ
 ○人ノアハレオイトシヤト云テクルル河ガサウタテヤ世中ヲ思ヒハナレヌホダ
 チヤワイタマクニモサウ云テクルル人がアルト 又ドウヤラステルモ抄リオホ

ゆるのひよみち

あふりひききてもいふの中はほのささげよれどーくわ

○コレ世間ノ流 知テ居ラルルモアラウガモ知ラシヤラズバ今ワガミテキカスラ

ツテナリ氏 此世ヲバ早ウステサウシヤレテウド風が吹テ浪ノサワガレウキリニ

ウチヨセテクル荒イ海ノヤウナ世中テ アトドウモ後付ヌアノドノチラヌヤ

ウスチヤヅヤ 。子秋ニ下白風吹テ、ほのささげよれどくわ、と云々

とせしん

づぐくわうそとばいともむんをせやもふもききぶづられ

○世ヲステドコニサ住ウヅ タトヒ世ニシタリ氏山ニシタリ氏 ヤウハリ

心ハサマヨウテアラウト思ハル、ワイ

よみ人しん

そやハひうーよりやうかりん あかひらのあふれぬるの

○ヨノ中ハ昔カラハ色リニウイ世中デアツタカ 但し又オレガオヒトリノタメ

ニハヤウニウイ世中ニナツタノカ 。子秋ニ云、ニの白ヤイ、

よのぬら成いしよ山のまもとやあるうれをのあふれぬるの

○セケテ人カ ^四アナウヤト云テ ^一世中ヲ ^ニイトウテ ^三住テ住山ノ草木チヤト

テヤラウイト云名ノ知カ ^五け山へ咲タ

みくしゆの心乃あらしふ宿もぐなそのうき所おれぬふせむ

○吉野山ハズイブン流イ山チヤガオレガゾミニハマダツク吉野山ノアチラニ

家ガホイモノチヤ世ノ中ノウイ時ノヒツコミドコロニセウニ

よふゆきをいふことすされみなりぬ 雲の如き^ほをふらりしてむ

○世なるニカウシテ居ルバ 次カニウイツライイバカリマシテクルニ一日モ早ウ

吉野ノ雜木ナクハヒツコモラウグ ヤウクイヤナ世ノ中ヤ

いづれもむねをのすふそぬ^ばはよのう^れゆれけしこごん

○ドノヤウナ^ゆイ山ノ中ニスダナラハ世なるウイイガキコエテコエテアラウワ

とてう^ゆふい^ふの中と^とは^はる^る思のたらしめ^るの^う

あー^ほびきの^の心^をか^られ^るま^じう^きは^中ハ^らる^かの^もな^う

○山ノ奥クヘド^コニテナリ^ルカケレウグ^ハヤウナウイ世中ニ住テ居ルセモナイ

よのゆきをいふことすされみなりぬ 雲の如きをふらりしてむ

○世中ノウイイ^ルニテキ、ニテタモウド^コニテナリ^ル 四ユキ^五グ^ケニ^ニ奥山^{カク}ハ^ヤ隠^キレウカ^ララヌ

おち^しも^じう^きい^ふ こ^のへ^のよ^うぬ

そのうき^をえ^るぬ^らは^への^うむ^ふハ^あん^をぞ^うの^りも

○世ノ中ノウイ^ルラ^スモ^ハモ^セス山^中ヘ^ハイ^ツテ^住ウ^ト思^フニ^ハド^ウモ

スステラ^レヌ^人カ^アラ^テフ^レニ^サツ^ナガ^レル^ウイ

山^のゆ^きの^もな^う

元^の内^の斬^の怪

よふゆきをいふことすされみなりぬ 雲の如きをふらりしてむ

○内坊^松モ山^ニオ^スマ^ヒチ^ヤガ^ツウ^{タイ}世^ガウ^{イト}ニ^テス^テニ^ミウ^テ山^ヘハ^イツ

タ^人ガ^山ニ^ステ^モツ^レテ^モグ^ヤツ^ハリ^ウイ^ハド^キヘ^イク^テギ^ヤリ^マセ^ヌ

おまのいりあいにきかきこころをよめる

今きふはあひいづしむれあまのうねやーあがきよくはふりや

○け子ハマア イマサラナゼニ生ヒテキターヤラ 何ニマテモハヤウニ

ウイラノオホイセチヤトハシラヌカヤイ

影あしん

ふみんあしん

よにぬればらの葉ちげきききけのうきやーこにききどあく

○世ニアレバチシノカイト人ニイワく 三ウイラライハル、二ガ多ウテサ其

夜ゴトニ うぐいせ 泣キマス

○ふ秋云 結句 音のこく
うぞかしくといひまじ

あまもはるばるふとあまのぬれゆのよめはふあまはるるぬぞら

○ワハホテモナシキテモナイ竹ノヤウデトナラモフカヌおニナルデアノウヤウニセハル、

うぐいせのこくあまのぬれゆのよめはふあまはるるぬぞら

うぐいせのこくあまのぬれゆのよめはふあまはるるぬぞら

○ナシラナ身ハ ウチ サニサテモウイ世中カカトクイテソシテ人ハニマテ世

中カ悲シウ思フテヤラレルガハヤウニ世中ノウイハ 我オカラノコトコウア

人ハツノヤウニモアレニ 下トウニテ人ハニマテカシウ思フテヤラレル、一ヤラ

備材はぐり

あまのこふれがされてけりあふり

たうひりの物

あまのこふれがされてけりあふり

○きイ井ナカへ別レテ来テ居テハヤウニオチブレテ 楠原カスルニゴトラマアセウトハ

思フタカイ思ヒモヨラナダクヤ ○子秋云 夫とぎハ獨りぐりハ烟縄約縄あどそく
わんをきたるをたぐりぐりハこさといひ

田村清時小事ふあはりてはまのさあはりよ
とくふふりのゆるふまのちふゆるさきりき

左京の平朝臣

わぐいごふとふあはりなつての浦ふりななれつゝおとこことよ
○京テオカウヲ誰モ問テクル人ハアルイケレモニモヒセ下問テラレル人モアツタ
ラバ身ハ次ナノ浦テはオスルゴトヲニテ^五キツウ雅ダラニテ居ルトニテトサレ
た近於世とけてゆるゆる女のとがらひふなこそせり
ゆる返すふりてきりりきそのけを家うせ

ひまびさのまつしーと今思ふふらんくと力をとたつてさき
○ワタシモいず及じり色アは合セテ^下タウク返ニテ我オデハナイカト存ズルめは二三

カヤフニハ流トサルレバ今テハモウハヤ天人ノ心の子トサレタヤウニサ存ジ
ニスル 押こめ切ナヨウコソル心の子トサレタレ けまなるとハ天上のたご
りり、物作どりのことかれんりり、物作やずふ心作とはトそ、流
しつゝかゝるつどこれな若より、流りてまげれんりもろこ、色、集申中
之のせまふハ心作の子成あまびこととあり、伴、かまひり、後、り
ふと家、一、流れく、中、も、わ、れ、ん、を、い、ふ、ま、れ、て、れ、ま、ハ、心、作、小、ハ
あ、い、び、う、き、ふ、お、ま、ま、こ、て、お、ひ、あ、や、う、ろ、く、こ、う、れ、

はくさときてゆるゆるあり、平、さきびゆえ

う記よふハ門させりともア、ま、く、ふ、あ、じ、り、あ、は、れ、い、そ、だ、て、ふ、そ、り
○オレハ門ヲサシテ出入セヌヤウニモアセヌニナゼニ我身ヲタメニ^四ウイ世中テ^五世ニ

出ヌーゾイ 初ハ四のむれなごころの下ふろつてるべーさそむ
かてとあすまふおとあそむしわハあしと進ハ官ととあしあハ
つぎくふれりおつてさそむしうふろればおとてしよあそむ
つぎくふれりおとてさそむしうふろればおとてしよあそむ
○イツマデモ生テ居火下デハナイ オツケ死ヌラ待ツワツカノ間ヂヤニセメテ
そるナリトモドウグハヤウニツライ昔方ノオホウカイヤウニタイモノヂヤ
みそのあはらふとみやつとほろろあそむと
とそてほろろあそむと みやらのきよめ
ほくそ^ほのあはらふとみやつとほろろあそむと
○筑波山ノキツウ^キテアルヤウニ^下多ク^下泳イ春宮ノ出^上ガラドウグト

お^ニな^三り^三テハヒタスラ其^ニ所^三セラサオシタイヤシニスル 狩林上の匂の流
^{ハナリノヨカク人ノ}あちりける人のあそふあちりけるて款くとそてそ
^{ケニヒニナリテ}かしのあそむとあそむとあそむとあそむとあそむとあそむと
ほろろあそむとあそむとあそむとあそむとあそむとあそむと
○日ノ光^リノアタラヌ谷^デハ 春モヨク^リテ 花^ノサク^リモナケレバ 其代^リニ
又 早ウ花^ガチツテ惜^イ思^ヒモナイヤウ^ナモノテ オレ^ガヤウ^ニ本^{カラ}花^モサカヌ
身^ハ人^ノ今^夜ノヤウ^ナ款^キモナケレバ ケツク^クコレ^モシカヤ
かつとあそむとあそむとあそむとあそむとあそむとあそむと
あそむとあそむとあそむとあそむとあそむとあそむと
あそむとあそむとあそむとあそむとあそむとあそむと

おさめの中ふあひなる里まらびうりそのいざねむじら

○此里六月ノ中ニエテアルトナニエル桂ノ里デゴカリマスレバ ヒタスラアチタ極ノ

光ヲササレニ波ニセウト存ジヌルワタシハ 后をば成したまふこと

きのことーさうがけを 今日も出下りし けふまかりける時ふうぬのもれ
むけをむじり 今日も出下りし けふまかりける時ふあかーふ
やかりわりきて 今日も出下りし けふまかりける時ふあかーふ

なりのりのおれ

今どあまらーれめのしくまのひ里をぶうとんまぶうりり

○人ヲマツハナギナ物ヂヤト云テヲ 今ヨサ始テ知リマシタ コチチバソウタイ
人ヲ待テ居ル所ハ うとん フサヲモズニ早ウイテヤルキテゴザルワイノ

ことあうれみこのもやふまかりうよひら 祝王 波かーらあ
ろしてふやしくよあふゆるに オヒラ 心月ふとやうり
とて満よりはらまきに かや 山けあもしねり うとん げき
いしふ うとん けりあひてかの うとん けふまかりいり
てをぶみ うとん ふつあ うとん けりあ うとん けりあ うとん けりあ
ア うとん けりあ うとん けりあ うとん けりあ うとん けりあ

わ うとん けりあ うとん けりあ うとん けりあ うとん けりあ うとん けりあ
○海イ雪ヲフミワケテトホイ山里へ系ツテ君ニ侍用ニカリマセウトハ
三 存ジニシタカイ 存ジモヨリマセナダテゴザリマス ソナタへ うとん けりあ うとん けりあ
トヲフトワステハ コレハマア及テハナカツタカトサ 存ジマスル

深草の里ふらみゆりてあまうでくんとそこ
うりりくふよみてあかりき

きりとしてまみあー里といでいあびいど深草中やうりあび

○年久しう住キタツタ此里ヲデ、イニダナラタバサへ深草ノ里ガヤニ
イヨくアレテ草ノフカイ野ニナルデカナゴザラウ

かーし
よーんちん

中々あぶらぐうとあそ年ハそあふたふやハあさぎしむ

○サイナアキ里ガヤニタツタナラ、ワニ鶉ト月ジヤウニ泣テ月日ヲタテマステゴザラ
ウニモウコレカラオマハモテチヨツトモ出ササハイハレウケニカエソヤアニマ
リデゴザリマズエ かりやち、勢と柄、小とりふよせしり。

野らび

あを君あふもの浦ふるうぐいめとこののらまともりふき

○オマヘガワタシヲ ^ニナデモナイモノニサツテ ^四ウイニアフタユニ ^三ソビデワクニハハハ
波ノ三津さへホウテ尼ニナリマタ 雅は浦・三津・海布・海士とあそ

けあはあふくひしーをこころをうぬのをとこと
ちどちりふれバ波のこころのちふまありてちまふ
ちりてよみてをこふつういかりきるとちむしん

かぬし

なふそがしーしむしあまもあまひんびんあまのあまこらあま
○ワニソシヤウニソナタニ眼ミラルヤウナナニモ見えハナイニ何ラマアソクニ思フテ

尾ハナリヤツタヅイ 浦をスゞきらるもあまふらうまの西とス
 くらぞとゞきをのてちそたはるるひらびらとゞきつにふを
 けくづしきとるるひらびらとゞきつにふのちその方
 のしちそのさふいわげは西をよくもれまふとゞきまふとゞき
 ちれまふとゞきらるるもあまふらうまをねてしりあまふら
 今まふとゞきまふもあまふらうまをむづりして門をせりて
 ○子ハヨアヒ素内カアルカウエテヤレ 今ニナリマシテ西のトササウナ西方ハ
 見えガゴガラヌ け方内ハイムモシゲツタ降デトヂテ門ヲサシテゴガルニ
 ヨツテアケラセヌトニテイナセヨ け方内ハ西のトササウナ西方ハ
 友あまらのえ〜うゆうでさふりらるるもあまふらうま

つうい〜き

ら〜

らのけりふあまらるるまのうにまのうきとあれや根とねてこぬ
 ○上ナゾはガヲフソクニ思ハスガゴガルガニテ 道ハトト打絶テ西が
 ゴガラヌ ケシカラヌオミカキリデゴガル 。よ林云然白根をとりつゝ上のうき
 うきまの極小いてふてまの心よあまふら
 人をとゞきまふらうまのけりらるるもあまふらうま〜とゞきまふら
 あひ〜ちふらひて〜とゞきまふら〜とゞきまふら
 力をす〜とゞきまふら〜とゞきまふら〜とゞきまふら
 ○オウラミ西をテゴガル 拙者モニカト撥ナイヲヒニトリマギレテ 存ジナガラ久シウ
 心外ニ西を沙汰ヲ波シタ 下 あまふら心ニ思フヤウニハナラヌ物デゴガルワイ
 身ハ我オナバトウナリト 我心次オニナルハズデゴガルニ 心ニ思フヤウニナラヌノハ

ワが身ヲ捨テオイテヨソヘイデニウテ心オトガ別ニナリカニリセヌヤ
 餘材あり—おまじり。下白ふ思やうりやうおひおまじり
 うりしりあまをさひひがふんふんうりうりしりあまをさひひがふんふん
 おひをうらなよりがあ—のふよりまうできうり
 うりしりあまをさひひがふんふんうりうりしりあまをさひひがふんふん
 なむつりしりあまをさひひがふんふんうりうりしりあまをさひひがふんふん

君が思ひをいつの—ばねまをさひひがふんふんうりうりしりあまをさひひがふんふん
 ○半作ノ思ヒガ君ノヤウニツモツナラツレヤドウモれニナリセヌナゼトナスニ
 ソニチラ春カラハモウサウハアルイト存ズバサ 君ハモチバニ消テスツヤ

か—

宗岳 大杉

きみとの思ひこ—ちのあ—ふん—うり—あまのきゆ—と記あり

○イヤくサウデハゴザラヌキ根ノうりッカリ思フテワガ来タハふぬるノ白山ハ
 イツサ君ノ消ル時ガゴザルゾイハ及ヒテモアラウガ白山ノ雪ハ春テモイ
 ツデモ消ハサヌ ワが思ヒモソノトホリデゴザルゾヤ

こ—ちりしりあまをさひひがふんふんうりうりしりあまをさひひがふんふん

おとひやうあ—しりあまをさひひがふんふんうりうりしりあまをさひひがふんふん

○君ノうら思フテなほ我ハハハ通ヒヌスツレテ白山ト云所モドチナカ
 シラ子氏 毎朝心ガカヨフニヨツテ ち白山ヲ及ニコエヌ夜ハ一夜モゴザラヌ
 ちみ人—

さびし—あまをさひひがふんふんうりうりしりあまをさひひがふんふん

○モウレウチテラキハメテワガ一生ハ伏見ノ里ニ住ハテウソオレガモシヨクハ移
 ヲテイダラバ此家ガアレテシウテアラウソレハアイカニシテモおまナクヤニ
 己ガウヤもみよの山ハ名ニハカクハヒキヨセテシウテカド

○ワガ内ニ時ノ山ノ麓ニヤ逢タバテハサセシテアル門ガソデゴサニス
 きせんは作

ワガ庭をみやこのたつこちうどまびらけうらむと人ハワヨリ

○ワガ庭室ハ京カラ辰巳ノ方キカラヌ宇治山ト云知デヤ外ノ人ハ山ニ住
 テニテモ京ガ近イハヤウリ世ノウイナガアワテドウモスニレス山チヤト云
 チヤガ拙傍ハコレヒセリニサ年久シク住テ居ル
 錦秋小山人ハ山の名をうらむらつけてといふたうりぢはも

らりしそてぬのうらむらつていふ京のまがぬうらむらつて
 池まふ昔よりいふまをぬらむらつていふ京のまがぬうらむらつて
 としたふ後ぬらむらつていふ京のまがぬうらむらつていふ京のまがぬ
 まふらひうらむらつていふ京のまがぬうらむらつていふ京のまがぬ

よみ人しらべ

あまのうらむらつていふ京のまがぬうらむらつていふ京のまがぬ

○此家ハアハレキツウアレタワイハヤウニシテ何年ニアナルオナレバ
 昔住ダスノ音ツレモセヌゾサダメテ住ダスハアワタデアラウニ

なまかりうらむらつていふ京のまがぬうらむらつていふ京のまがぬ
 てよみたりきよみものむらつていふ京のまがぬ

とび人のとむじきなをどるるる^ほぶ歌きくをいほきけるぞすら

○此家ナシ子人住ヤウチ家チヤガト足バソラテヌも歌キソラ塔ノ高ガサレ

マシクモふまうづるふまうの京ふやどけりりは

とむじよのちん

二條

人々の里といひこころはどもぬらのみやこに記あるり

○京ハ人ウラフルイ物ニシテヌステタ高チヤヨウテイヤニ足フテホテキタケレ

此奈良ノ郡モフルサト、チレバ同ジクフルイ物ニ足ハレルワライ名チヤワイ

歌あしむ

よみ人あしむ

よの中ハつづきちりしてころあしむいひきかぬをぞやどいふ

○モゴト是チイイ世中チハイヅクドノ家ガコゾトヌテ定ニツタワガ家デアラウケ

定ニツタワハナイドコデアラウガイキトツタ所ヲサオハ家チヤトシテ居ル

を返のあしれ風いきりきどゆくへちしねばどびつぞぬふ

○け相坂山ギウウ嵐ガフイテ夜ハ寒イケレ所ヲカヘテドコヘイタト云ニモサキ

ガヌドノヤリニアラウヤラシレ子バナキチガラモシバウシテコニサカウテ寐マスル

風のうふりくさむぬらるものちゆくをいびらうぬづら

○ドコト云一ナシニ風ニフキアゲシテアルク塵ヲヤウナシテモナイハチハテウド

ソノ塵ノヤリニユクサキハドコヘトウナツテユカウヤラシレヌヤウニ足ハレル

家とくろくとしてよめる 作勢

花を川あちのもあぬあおもせようりゆくおまぞさる

○アスカ川ノ淵ゴソホニカル物チヤトケ及ニテ居レソノ花を川ノ淵テモ

ナイワシが家モ不仕合ナ時そはニナレハ 淋ニカハツテユク物子ヤワイ
淋ニト云ノハッレアノオアシノサガテシカエ

つくふはりるぬままりをひつごうちるるの日に
京ふゆりまうできてきりる 紀友好

あつハツテもはひびをのくまのくしあをきりかりりる

○京ハあつナガラ久シフリデモドツテ足ニスレバ けりモキツウモヤウガカウテ
先年ノヤウニモナウテシラヌへキツタヤウニコサルソユエキ根ト毎度
碁ヲおテけりモ忘テ面白ウクラシタモ洋ガサキウゴザルワイナ
女どももどらりおどらりしてまわれて後よほり
ハハハハハハ
みちのこ

あつざりー神の中へもふけむさかたるいひのまきこちちすり

○ワシガタミシヒオノコリアホウ存ジテ別ヒミタオヘノ袖ノ中ヘハイウツテ
アナタニトニツテアルカ存ジメセヌサウカレテアナタカラゆりマシテカラ
トツトワレハオヘノバカリ忠ラテウカクト被シテタミシヒガコニハナイ
ヤウナコロモナデゴザリマス

寛平伊勢ふも修りーのま^判ごん^官ふ^仕えされてゆり
りる所小東主のまやひそをのこどもさけはるる
ついでふよみゆりる ぬらりるれあひさ

なつよ竹のよまきこちふ初おのちまかてものをとるふりあふな
○^{五丁}はる夜ハ長シ竹ノウヘハヤ初おモオイテ寒イニ孫モセズニオキテ

テ久シウ鳴ク

本海舟名の流傳材をり

~~~~~  
~~~~~

○人ハドウナラヤラ 三 ニクサキノシメモノナバ 後ニモシ人ニ忘レラレタ時ニ

ロラヌテ思ヒタセト寄テサ イセリニ 他ヲカイテ手紙ヲノコレテオキエス

貞観^{イワシランニ}淨^{イワシランニ}付^{イワシランニ}茶^{イワシランニ}葉^{イワシランニ}集^{イワシランニ}ハ イワシランニ

~~~~~

ぬんやのあらしきり

かゝれ月<sup>イワシランニ</sup>の<sup>イワシランニ</sup>あ<sup>イワシランニ</sup>ら<sup>イワシランニ</sup>り<sup>イワシランニ</sup>の<sup>イワシランニ</sup>~~~~~

○ 上 コレハ 奈良<sup>コレハ</sup>宮<sup>コレハ</sup>内<sup>コレハ</sup>付<sup>コレハ</sup>代<sup>コレハ</sup>ノ古<sup>コレハ</sup>イ書<sup>コレハ</sup>デゴザリ<sup>コレハ</sup>ニス 又奈良<sup>コレハ</sup>宮<sup>コレハ</sup>ノ

淨<sup>コレハ</sup>付<sup>コレハ</sup>代<sup>コレハ</sup>ニ古<sup>コレハ</sup>カラ集<sup>コレハ</sup>タトナス集<sup>コレハ</sup>ガサ イワシランニ

な<sup>コレハ</sup>の<sup>コレハ</sup>茶<sup>コレハ</sup>ハ<sup>コレハ</sup>名<sup>コレハ</sup>小<sup>コレハ</sup>つ<sup>コレハ</sup>き<sup>コレハ</sup>て<sup>コレハ</sup>~~~~~

~~~~~

寛平内付^{イワシランニ}~~~~~

大に千里

~~~~~

○ 世 人<sup>コレハ</sup>ハ<sup>コレハ</sup>ニ<sup>コレハ</sup>立<sup>コレハ</sup>才<sup>コレハ</sup>波<sup>コレハ</sup>ス 一 一<sup>コレハ</sup>人<sup>コレハ</sup>オ<sup>コレハ</sup>ク<sup>コレハ</sup>レ<sup>コレハ</sup>テ<sup>コレハ</sup>ニ<sup>コレハ</sup>エ<sup>コレハ</sup>モ<sup>コレハ</sup>波<sup>コレハ</sup>サ<sup>コレハ</sup>ズ<sup>コレハ</sup>飲<sup>コレハ</sup>イ<sup>コレハ</sup>テ<sup>コレハ</sup>ラ<sup>コレハ</sup>リ<sup>コレハ</sup>マ

ス バ 誰<sup>コレハ</sup>モ<sup>コレハ</sup>申<sup>コレハ</sup>上<sup>コレハ</sup>テ<sup>コレハ</sup>ト<sup>コレハ</sup>サ<sup>コレハ</sup>ル<sup>コレハ</sup>ハ<sup>コレハ</sup>ナ<sup>コレハ</sup>イ<sup>コレハ</sup>ト<sup>コレハ</sup>カ<sup>コレハ</sup>ヤ<sup>コレハ</sup>ト<sup>コレハ</sup>ウ<sup>コレハ</sup>ヅ<sup>コレハ</sup>ハ<sup>コレハ</sup>格<sup>コレハ</sup>子<sup>コレハ</sup>ヲ<sup>コレハ</sup>上<sup>コレハ</sup>ヘ<sup>コレハ</sup>テ<sup>コレハ</sup>サ<sup>コレハ</sup>レ<sup>コレハ</sup>カ<sup>コレハ</sup>シ

~~~~~

~~~~~

○ 人<sup>コレハ</sup>ニ<sup>コレハ</sup>ハ<sup>コレハ</sup>ズ<sup>コレハ</sup>ニ<sup>コレハ</sup>我<sup>コレハ</sup>々<sup>コレハ</sup>ニ<sup>コレハ</sup>形<sup>コレハ</sup>フ<sup>コレハ</sup>子<sup>コレハ</sup>ノ<sup>コレハ</sup>アル<sup>コレハ</sup>ハ イワシランニ

上<sup>コレハ</sup>ノ<sup>コレハ</sup>淨<sup>コレハ</sup>目<sup>コレハ</sup>ニ<sup>コレハ</sup>モ<sup>コレハ</sup>見<sup>コレハ</sup>エ<sup>コレハ</sup>ヨ<sup>コレハ</sup>カ<sup>コレハ</sup>シ イワシランニ

しと先しきふなまふとてよみておふふらふま  
てたてゆつりける 伊勢

山川の春ふのしきくりにあさをみともやあかするよしもがな

○伊勢のウヅハ モウタ<sup>ニ</sup>今テハ<sup>一</sup> 春ニハカリウケタハツテヨリニ

テウチタエテ上リニスル<sup>一</sup>モゴザリニセヌガ ドウソニカタ宮ガカへは<sup>ニ</sup>テヨリ

ニシタホリノオデ今モホツテ見ニシタイ<sup>一</sup>チャト存<sup>ニ</sup>ニスル

古今和歌集卷第十九巻を院

雑躰

短歌

野一らむぞ

よみ人一らむ

|       |         |       |                       |
|-------|---------|-------|-----------------------|
| りふしの  | まねらるるあふ | おのひそめ | こころあつたふ               |
| あふぐもれ | もろとたれあく | ゆめの神の | ゆえつ <sup>ニ</sup> こころあ |
| 思ふごと  | あふとかがし  | あやしき  | 人をうらむ                 |
| こころもの | おきこふらるる | おのひて  | おのひはかへ                |
| つづふ   | うらぬづふ   | ゆくあつ  | こころあはく                |
| かくれふ  | 思ひこぼれて  | ゆきも乃  | 年がぬづく                 |

ありへども ボブノオナレハ えふのちあれバ あややみげ 思ひかふり  
 あー川の 心 心ちこち乃 こがれて 思ひかふり  
 むねよしも あひ あひこころむ をふいでバ 思ひかふり  
 そみどめの ゆふ ゆふまねれバ おろりわて 思ひかふり  
 るげきつり せん せんさるふ をふおく 思ひかふり  
 ちちあへの 衣 衣乃そでふ おく 思ひかふり  
 ありくども ね ねまけらぬ まがき 思ひかふり  
 いられとんくを

ぬううなるうーぬぬぬううのそのなるうう  
 けし申き

ちちあゆ 林 林の古代り く くの牛の う うふも  
 あどえの ま まね乃やまの ま まがら 思 思ひみだれて  
 さこづねの き きももぢあふ さ さよふけ 山 山やまぎん  
 ねくごふ も もねも種あて か かおき あ あゆこの山  
 お糸なを 足 足のくまのぶ 林 林あづき あ あぢれく  
 冬は雪の 庭 庭ももねふ う うきさ乃 ね ねきえん  
 ときしふ と とねまうけつ あ ありとて お おと成ひつ  
 君との あ あ代よといふ せ せ乃人の 思 思ひすか  
 やどの ゆ ゆねの あ あらき あ あらき あ あらき  
 ぬらぶらも あ あらき あ あらき あ あらき

とうらぎの　あせがこみ　まねくの中ふつらと  
 いせの海の　浦がくづひ　いづひあつめ　とねとすれど  
 たまのをけ　みどりねら　あひあつど　ねふりいぬの  
 年とく　たまふのみ　むさかこの　ひよるわぐど  
 ほんま　かつらもまね　うか釜の　きこきりう  
 づるのこ　うまぬれ　もろまきりき  
 かしこふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

壬午、大男

とう牛の　うのぶ　うらとせを　いづかのあまの  
 いふく　あふらりき　のまき　あふさひく

|                      |        |                    |        |
|----------------------|--------|--------------------|--------|
| <small>アツトイフ</small> | あふさひく  | <small>大まき</small> | あはまゝあ  |
| そのあま                 | あまのやま  | まきこあが              | あまのせまの |
| うらは                  | 今もあふせり | うらわらも              | ちらふつぎわ |
| ちらあふ                 | つらねるごと | とりいむ               | これとあふ  |
| いさ                   | くらあきぎせ | いひい                | あふほえらむ |
| うら                   | ちのあまけも | あまあ                | いづらん   |
| あつ                   | かくあれむも | うらむら               | ちらあまの  |
| あま                   | うらあは乃  | うらあふ               | あまあまて  |
| みる                   | あまあまの  | あまあ                | あまあま   |
| あま                   | いのあま   | 申あ                 | あまあ    |

|        |      |      |      |
|--------|------|------|------|
| きりぎりき  | 今いぢふ | ちうけれ | まはる  |
| たみむも   | なうつき | おきし  | 秋はあに |
| 神をか    | あふおま | せん   | かろし  |
| えき     | つねる  | ちう   | いつのむ |
| るり     | いれ   | こ    | おのび  |
| ヨクニナツカ | あは   | と    | あふ   |
| やうれ    | な    | お    | さす   |
| か      | る    | あ    | か    |
| し      | る    | あ    | か    |
| そ      | こ    | あ    | か    |
| る      | お    | ま    | お    |

くさりもが 夫が八代を ころえつてんむ

やよきまづ今のせれふおのまきとよけいともうけともよ  
 こまじよきいと餘計るの字まうともせもめれだまあじ  
 右まきし竹枝より佛を石の夜と都ももこよきいとよ  
 とやと畧きるびやよとを 弥過まのつれいごて数の  
 こまじよきいとわび又あふまきとあまもいそれぞ  
 夫が代ふりよほのいそあこあれらうとあひひけるうな

○カヤウナアリガタイ君の世ニアウ時をモアルモヲ今マデハタビヒタスラ  
 ウツモレテ居ルトツツカリヌフターヨアハウナカナ

冬のおづら

元河内躬恒

|       |        |       |        |
|-------|--------|-------|--------|
| ちまやぎ  | 津み月とや  | けさよりい | くものちりぞ |
| うちちぐき | お紫とゆふ  | あさきの  | しほふら   |
| ふあ〜も  | ま〜くろ〜ふ | あ〜ゆけい | あ〜と〜   |
| うきちりし | あ〜も〜   | おれこやり | あ〜と〜   |
| 庭の面   | む〜く〜   | あ〜と〜  | う〜ふ〜   |
| ふ〜君の  | つ〜り〜   | あ〜は〜  | ま〜と〜   |
| そ〜ぐ〜  | つ〜か〜   |       |        |

七條后うせ給ひるのちふよみき

伊勢

おき〜  
あ〜  
ま〜  
ひ〜

|       |       |      |       |
|-------|-------|------|-------|
| いせのあき | おみぐ〜  | こ〜ら〜 | よ〜む〜  |
| うら〜きふ | 後のりら乃 | くれきあ | あ〜ら〜  |
| あ〜    | 秋のゆみら | む〜   | おのがちり |
| あ〜れ〜  | ねむ〜   | あ〜   | あ〜    |
| む〜き   | あ〜    | む〜   | あ〜    |
| あ〜    | あ〜    | あ〜   | あ〜    |

旋頭歌

あ〜ら〜

よみ人あ〜

うらほとをちか〜  
あ〜  
あ〜  
あ〜





誹諧歌

新あしび

よみ人しらす

梅をうつよしも花つきうぐひまのくらくらひいひいとき

○梅をうつよしニキタノデコラアレドウモスルコトハナイニナゼニヤラキガ人が  
クル人がクルト鳴テ人オモルコイヤガツテマア居

素世法師

山吹の花りりじりもぬやれそどろこどろこらあはして

○け山吹ノをノ色ノ衣ハヌニハ誰レヂヤトトトヘンジセヌ山吹ハ梅子  
ノ色デロガナイニヨツテサ

友原敏行 卯辰

いづくもくれ田をつくれバクはどぎんきでの田をどねみくようぶ

○トホドノ田ヲ作ルトテ時モハアヤウニシテノタラサヲ毎朝クヨコトブ

七月ふりなむこのころをよこり

若原の糸を巻

いりーくしまさくをどねふらげて云の川糸をりや海へむ

○今日ハ六日ナレバ天ノ川ハ明日ワタルチヤケレ牽牛ガハイツカクト待チカ  
子テ居ル心ヲ織女ニスセウタニ今日液ラウカシラヌ

人小おとがくと歌ハ一スきうういひたの寝ふも糸あぐとらさとの  
まーあぐべし七依り紀小いもまきまきばあそてはびびらんと  
スせむたふ七日小後るべきを六日に海へんといふまきて 睡をか

げて海<sup>うみ</sup>と<sup>と</sup>かひたりぬの<sup>と</sup>く<sup>く</sup>きん<sup>ん</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>海<sup>うみ</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>び<sup>び</sup>と<sup>と</sup>結<sup>むす</sup>ば  
秋<sup>あき</sup>の<sup>の</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>ー<sup>ー</sup>と<sup>と</sup>よ<sup>よ</sup>は  
む<sup>む</sup>つ<sup>つ</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>び<sup>び</sup>と<sup>と</sup>き<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>ふ<sup>ふ</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>づ<sup>づ</sup>く<sup>く</sup>ハ<sup>ハ</sup>秋<sup>あき</sup>の<sup>の</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>ー<sup>ー</sup>と<sup>と</sup>よ<sup>よ</sup>は  
○ムウゴトモマダ皆マデエ云ハヌノニハヤ夜ガアケル柝子チヤ 秋ノ夜ノイ  
ト云ハドコガキイヅ

傷心遍昭  
秋のゆくまよききたてて女所をあるかーかまーおもしゆ〜き

○秋ノセニアノヤウニ女ニ花が大ゼイ 子ヤラクラト云テ立テ居ガア、ヤカ  
マシヤアノヤウニ花ヤカナモ一サカリノワツカノヲ「チヤ オツ、ケシホシテスサ  
シイ物ニテル「ラバシラスニア、

よみ人あしび

秋<sup>あき</sup>れ<sup>れ</sup>バ<sup>バ</sup>世<sup>よ</sup>づ<sup>づ</sup>ふ<sup>ふ</sup>たり<sup>り</sup>く<sup>く</sup>を<sup>を</sup>み<sup>み</sup>ま<sup>ま</sup>ー<sup>ー</sup>い<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>く<sup>く</sup>う<sup>う</sup>は<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>る<sup>る</sup>べ<sup>べ</sup>き  
○秋ニバ世ヘニシヤラツイテ居ル女ヲ花ヲ来テスル人ハ誰デモツメツテ  
タハムルツメツテスヌ者チイ つむと花を摘をうみたり。  
秋<sup>あき</sup>房<sup>ふら</sup>の<sup>の</sup>も<sup>も</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>色<sup>いろ</sup>バ<sup>バ</sup>女<sup>に</sup>房<sup>ふら</sup>茶<sup>ちや</sup>花<sup>はな</sup>此<sup>こゝ</sup>ま<sup>ま</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>ん<sup>ん</sup>く<sup>く</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>色<sup>いろ</sup>も<sup>も</sup>ら<sup>ら</sup>ら  
○房ガハレタリクモツタリスバ 女房花ノウウクシイ姿ガサエエタリカクヒリスル  
結句か<sup>か</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>ほ<sup>ほ</sup>て<sup>て</sup>よ<sup>よ</sup>む<sup>む</sup>べ<sup>べ</sup>し。 梅材チササふらあし。  
と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>む<sup>む</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>あ<sup>あ</sup>ん<sup>ん</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>た<sup>た</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>さ<sup>さ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>れ  
○女房茶ヲ花チヤト思フテ折ラトスバ 女郎ト云名ハヒヨチ名デコソアレ  
ドウモ女郎ニ手ヲカケテ折ラハスミ 梅材チササふらあし

のほろほろとすゞて雅ととくふもなれはふのかつひては申  
小物ぢやくして用ひしつゝさふ遠よしくまゝにふふれ文ふまじその  
用ひしつゝを此の例どりとに合せてよく考へてとくぐまじ

寛政の御時よのまはら合はら ちよひのやま

秋風はほろほろびぬし花むらぶつてささえてよきなりぐとほく

○菘袴が秋風テホコビサウナ ソホコビヲツクリサセトニテキリぐスガ

わをまきくむじしる日ぬりはあのかさより風のこもせ

吹こーきりとるてそのとまりよふてをーく

まよりのちやち

そらぐさきのとまりれをりねば申垣よりぞ花はちりりけれ

○マダ冬ナレドモウ明日春がタツ今日デ 近イ春ノトナリチヤニヨツ  
テサカヒノ垣ノウヘカラサソノ春ノ花ガチツテクルワイ

影ーらぢ

よもいーらぢ

いそのうとぬりおー糸の沖さびてとやほ小おはつを祓うまつ

○いづデモ年久シウナレハ神ノヤウニ性カハルモノヤガオレが糸モ年久シウナツ

タユエ 性カ入ッテ ソノ糸ガタハツテオレハサ 夜ルモエ子ムラス

枕より此より糸のせえんもさむくことねごとまふふをほ

○オレハ夜子テ居ルニ 枕ノ方カラモ跡ノ方カラモ 両方カラシキリニ 糸ト云

鬼メガセメヨセテクルニヨツテ 跡へモヨラレズサキへモヨラレズドウモシヤウガ

ナサニ床々ニ中ニサチツト記テ居ル ちよひのやま



きの先のや

ゆの後のさぬ思ひよりえづりえ種よふきとぬむり

○か来又恋ノ思ヒ云子ノモエルハキツウ苦シイケレ<sub>二</sub>ハテドウモセウ<sub>一</sub>ガナイ  
モエヨサ 富<sub>一</sub>土山ノ林<sub>サヘ</sub> エ<sub>サケ</sub>内消<sub>ニ</sub>サセイ<sub>デ</sub> ジャウチウ思ヒ<sub>ノ</sub> 煙<sub>ニ</sub>モエサツ<sub>ニ</sub>ヤ  
ルモノ<sub>ヲ</sub> 人<sub>ヲ</sub>ハツ<sub>ノ</sub>ハズ<sub>ノ</sub>ギヤ 初<sub>ハ</sub>ハ<sub>ノ</sub>白<sub>ツ</sub>きて<sub>ホ</sub>の<sub>ノ</sub>種<sub>と</sub>ゆ<sub>ふ</sub>  
きのありとも

けひんきくほハぬろくあきく人ふつきかきまをひくをこれ  
○アヒタイト思フ心腹<sub>ハ</sub>アイリナガラモ 人<sub>ニ</sub>ア<sub>ハ</sub>ル<sub>手</sub>ガ<sub>リ</sub>ガ<sub>サ</sub>ニ<sub>ド</sub>ウ<sub>シ</sub>タ  
ラヨ<sub>カ</sub>ロ<sub>カ</sub>カウ<sub>シ</sub>タ<sub>ラ</sub>ヨ<sub>カ</sub>ロ<sub>カ</sub>トイ<sub>ウ</sub>ニ<sub>心</sub>ガ<sub>サ</sub>マ<sub>ヨ</sub>ウ<sub>ウ</sub>イ<sub>ソ</sub>レ<sub>ヲ</sub>夜<sub>ル</sub>月<sub>ヤ</sub>星<sub>ノ</sub>ノ<sub>ニ</sub>ノ  
星<sub>ハ</sub>タ<sub>シ</sub>ト<sub>アリ</sub>ナ<sub>カ</sub>ラ<sub>モ</sub>月<sub>ガ</sub>ナイ<sub>レ</sub>ラ<sub>ウ</sub>テ<sub>及</sub>ニ<sub>ヨ</sub>ラ<sub>ト</sub>キ<sub>ニ</sub>タ<sub>ノ</sub>ガ<sub>能</sub>踏<sub>デ</sub>ゴ<sub>ザ</sub>ル

小物、小町

人ふあをくひしものもあふんひんあきさむひそくふんやけをこ

○思フ人<sub>ニ</sub>ア<sub>ハ</sub>ル<sub>寄</sub>付<sub>ノ</sub>ナイ<sub>夜</sub>ハ 人<sub>ヲ</sub>思<sub>フ</sub>思<sub>ガ</sub>火<sub>ハ</sub>ル<sub>ヤ</sub>ウ<sub>ニ</sub>シ<sub>テ</sub>胸<sub>カ</sub>モ  
エ<sub>テ</sub>エ<sub>床</sub>ス<sub>ニ</sub>起<sub>テ</sub>居<sub>ル</sub> 二<sub>の</sub>方<sub>より</sub>。 藍<sub>ハ</sub>く<sub>あ</sub>ふ<sub>ら</sub> 一<sub>よ</sub>り<sub>バ</sub>  
よ<sub>を</sub>穿<sub>キ</sub> 旗<sub>ま</sub>る<sub>人</sub> 二<sub>の</sub>方<sub>の</sub>月<sub>の</sub>ま<sub>り</sub> 月<sub>と</sub>思<sub>ひ</sub>て<sub>そ</sub>の<sub>よ</sub>  
烟<sub>の</sub>き<sub>く</sub>人<sub>又</sub>思<sub>ふ</sub>て<sub>小</sub>城<sub>を</sub>か<sub>て</sub>て<sub>て</sub> 一<sub>テ</sub>火<sub>ハ</sub>く<sub>ら</sub>り 旗<sub>柄</sub>ふ<sub>か</sub>  
<sub>く</sub>て<sub>より</sub>思<sub>ひ</sub>ま<sub>じ</sub>い<sub>く</sub> 一<sub>は</sub>だ<sub>か</sub>く<sub>て</sub>お<sub>ひ</sub>て<sub>お</sub>て<sub>お</sub>く<sub>る</sub>  
宮<sub>を</sub>あ<sub>ら</sub>し<sub>め</sub>の<sub>ま</sub>の<sub>ち</sub>合<sub>せ</sub>や 春<sub>を</sub>あ<sub>き</sub>く<sub>を</sub>  
ま<sub>を</sub>成<sub>ら</sub>さ<sub>ぎ</sub>く<sub>せ</sub>の<sub>さ</sub>め<sub>は</sub>なる<sub>さ</sub> 一<sub>が</sub>ふ<sub>ん</sub>も<sub>つ</sub>ひ<sub>お</sub>る<sub>さ</sub>  
○モ<sub>レ</sub>思<sub>フ</sub>人<sub>ガ</sub>ウ<sub>カ</sub>ド<sub>ウ</sub>ギ<sub>ヤ</sub> 春<sub>ヲ</sub>也<sub>ニ</sub>若<sub>菜</sub>ニ<sub>ア</sub>ウ<sub>テ</sub>思<sub>ヒ</sub>テ<sub>思</sub>タイ<sub>也</sub>ギ<sub>ヤ</sub>

着菜准テモツム物ヂヤワサテツレテヌタイトハツラテヌタイトエーヂヤフエ  
美菜といふを考ふる人のあきを頼むふらふらしよきいあー

ひららば

よみ人あはれ

思ひてはれうとぬねまかきしからぬ山乃めじとありんを

○ワシガムフ人ハキツイ 牲ワルナレバ 方へカ、リアルイテテウドモノ  
廢ノドコ山へモカシコ山へモカ、ラヌアハナイヤウナモアアラウト思へバ  
思ヒナガラモヤツハリウトく、レイ心おカスル

平ノ貞文

まのゆれあつてもあふのつよいふとびらけのあつてもあつ

○一 二 オレハ女ヲ思フ思ヒガシケウテ 四 ホラくトサ泣マス

上りまものゆれあつてもあふのつよいふとびらけのあつてもあつ  
しつぎたふふとあー。あはよあのそーとあふとあー

まのよーむし

秋のゆふ妻あつても麻の年ととくくもももが恋のかひよとどあく

○毎年く 秋ノ野テ妻ノアリモセヌ麻ガ 恋カヒヨクトサナクガ アレハ  
ドウシタフヂヤゾ 妻ニアフタラバコソ 恋カヒガアルトハ鳴ウナレ 妻ノナイノニ  
恋ノカヒヨト鳴カハナイニ けあ下向のてふをものゆたうとて切て  
ちのこふふとし。又河のまの流ニれまの流ふらふらとつゆえんやうと

みはれ

増のゆれひくふらうまにあをうまにうらむきあまはらぬ

○**一**今コソ一向ニウスイ心ナレ  
 ○**三**馴タラバユクハ辱ウヲ<sup>オ</sup>ニ思ヒヨツテ  
 本サウナ物デハナイカ 馴タラ大カタヨツテ本サウナモノニ思ハル、オアソ  
 尚<sup>ニ</sup>儼然<sup>ニ</sup>シ<sup>レ</sup>但<sup>シ</sup>一<sup>ニ</sup>辱<sup>ス</sup>モ<sup>シ</sup>ハ<sup>レ</sup>其<sup>ノ</sup>紙<sup>ヲ</sup>モ<sup>シ</sup>ハ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>シ<sup>ト</sup>也。

○<sup>イッ</sup>一<sup>ニ</sup>ヨ<sup>ニ</sup>寐<sup>サ</sup>ヘセズバ、メツタニ名ハタチハスミイホドニ<sup>ニ</sup>怪<sup>ル</sup>モ<sup>シ</sup>思<sup>ヒ</sup>テ<sup>オ</sup>レガ  
 本ルバカリヲバツノヤウニイヤガラシヤルナイ

か<sup>ク</sup>も<sup>ぬ</sup>の<sup>ち</sup>ま<sup>り</sup>あ<sup>ら</sup>ぬ<sup>は</sup>の<sup>秘</sup>ぬ<sup>る</sup>は<sup>の</sup>秘<sup>ぬ</sup>る<sup>は</sup>た<sup>じ</sup>と<sup>ま</sup>い<sup>と</sup>ひ<sup>そ</sup>  
 〇<sup>ト</sup>テ<sup>モ</sup>を<sup>テ</sup>ク<sup>レ</sup>ヌ<sup>ラ</sup>井<sup>ナ</sup>ラ<sup>イ</sup>ツ<sup>ワ</sup>イ<sup>ヤ</sup>チ<sup>ヤ</sup>ト<sup>ニ</sup>切<sup>テ</sup>ニ<sup>ハ</sup>ヨ<sup>イ</sup>ニ<sup>ナ</sup>ゼ<sup>ニ</sup>イ<sup>ヤ</sup>ト<sup>モ</sup>

オ、ヒ云キラズニ<sup>五</sup>ヒツカ、ウテ居ルソ、ア、世ノ中ト云モノハ

オ、ヒ云キラズニ<sup>五</sup>ヒツカ、ウテ居ルソ、ア、世ノ中ト云モノハ

オ、ヒ云キラズニ<sup>五</sup>ヒツカ、ウテ居ルソ、ア、世ノ中ト云モノハ  
 の<sup>こ</sup>い<sup>つ</sup>が<sup>能</sup>滞<sup>る</sup>も<sup>い</sup>ふ<sup>て</sup>や<sup>ん</sup>だ<sup>ぬ</sup>ま<sup>ふ</sup>し<sup>と</sup>い<sup>ふ</sup>と<sup>思</sup>は<sup>れ</sup>ぬ<sup>べ</sup>  
 〇オレヲ思フクトイツデモ人ノ心内へも夜ゴトニイッテ隠シテ居テ<sup>實</sup>ニ思

フニチガヒナイカウソデハナイカ、ビツヤウノホラヌト、ゲタイモノチヤ

〇コレホドニワヒ思フケレ、<sup>凡</sup>ソ<sup>レ</sup>其<sup>人</sup>ハ<sup>ト</sup>カ<sup>ク</sup>思<sup>ハ</sup>ヌ<sup>ク</sup>ト<sup>ハ</sup>ッ<sup>カ</sup>リ<sup>ニ</sup>ナ<sup>レ</sup>バ<sup>イ</sup>ヤ<sup>ク</sup>  
 コレカラモウ思フマイゾ、思フテモソノカヒカナイ

〇コレホドニワヒ思フケレ、<sup>凡</sup>ソ<sup>レ</sup>其<sup>人</sup>ハ<sup>ト</sup>カ<sup>ク</sup>思<sup>ハ</sup>ヌ<sup>ク</sup>ト<sup>ハ</sup>ッ<sup>カ</sup>リ<sup>ニ</sup>ナ<sup>レ</sup>バ<sup>イ</sup>ヤ<sup>ク</sup>



○思フくト云ノモワレガリラ思フナヤあるべきとワレテヨイガいでやイヤモウ面白ウ  
ナイ、まゝ入心ハ大森テサ、引<sup>レ</sup>羊ガ多クハドウモ

○紙思<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>おも<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>が<sup>レ</sup>そ<sup>レ</sup>よ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>

○ワレラ思フテクレル人ヲコチカラワレカ思フテヤラヌ、ムクイカキテ、ワレガ  
思フ人ガ、ワレラスツキリ思フテクレヌ

一ト ぬうやぢ

思<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ぞ<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>かり<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>を

○二ハカタ誰ゾオレヲ思フ人ガアウタテアラウ、<sup>ニニ</sup>も<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>コチカラモ其人ヲ思フテヤレ  
ハサヨカツタニコチカラハ思ハナシテ、ソノムクイガキテ、今オレガ思フ人カオレラ思フテ  
クレヌア、<sup>ま</sup>マ<sup>レ</sup>ラ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>ヌ<sup>レ</sup>ヤ<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>多<sup>レ</sup>イト<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>ナイ<sup>レ</sup>コ<sup>レ</sup>カイ<sup>レ</sup>キツトアル<sup>レ</sup>チヤワイノ

一ト よしんあ〜ん

物<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>む<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ぞ<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>かり<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>を

○此テイナウトスル人ヲドウモ思ワレカタガナイニ、ドウゾ今、近而隣、テタナリト  
クサソラスレバヨイニ、エ、カウ云トキニ、クサタラスル人モナイ、コカナ

くま<sup>レ</sup>ち<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>そ<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>こ<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>なり

○源ウ思フノモドウモお<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>ナ<sup>レ</sup>ヌ、まゝ入<sup>レ</sup>ラ<sup>レ</sup>イ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>ク<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>バ<sup>レ</sup>ド<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>ヤ<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>源<sup>レ</sup>カ<sup>レ</sup>ツ<sup>レ</sup>タ  
心<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>カ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>ル<sup>レ</sup>ヂ<sup>レ</sup>ヤ、お<sup>レ</sup>灰<sup>レ</sup>汁<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>め<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>そ<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>なり。

い<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>身<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>約<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>ね<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>ぢ<sup>レ</sup>ぐ<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>ご<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>こ<sup>レ</sup>ち<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>

○人ニキラル、ワレガ身ハ春ノ駒カシテテウドま<sup>レ</sup>コ<sup>レ</sup>ロ<sup>レ</sup>約<sup>レ</sup>ラ<sup>レ</sup>ぢ<sup>レ</sup>何<sup>レ</sup>ガ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>ラ<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>チ  
シテヤウテカ、ハズニオクヤウニ、ワレラ思ステ、チカラカ、ハヌ

うづひもれしどのおらうのあすもあまのつしめわう

○ワシニ人ノウレナイハ 一ニ フルイ抱ニシテニウテノカシラヌ

上ニるハたゞ河のつげのこしおすおぬすのふくとつるはらじ

さわし。ほらふあまのまのさればおのまぶおねとまひいりぬ

○オレモ夏ノ身ハイシコサウニ暑イニヨツテ独人ナシ居ラスルト人ナシニ云テマギラカ

シテオケル 冬ニサウテハヤウニ冬イ夜独居ルハ何トモ云ヤウガナイ

平中貞

ふさふの今いづつふまりぬればあふくらでいつきおらりりつ

○逢ふモモウ今デハハツクナコトニウテ也カ更テカラスデナケバモサリヤク

カデケヌワイ 此のちぬまじつりふとつりガリふらりぬまを

月のかきさきすれ河のちをせ方のふたりまのまふかからん

たのちあすちきこ

のちあすのすれ山よりのちともかたれむと思ふあまあまふ

○吉野山ハ対外海山ギヤケル 日本ノ吉野山ハオロカナ一タトヒソチガ唐天

竺ノ吉野山ノオクヘモツタトエテモ 我ハちんニシテ改ニサツテ居ヤウ

トハ思ハヌ ドコニデモアトラシタテオツカケテユカウトサヌフ

なやうき

やうちぬあまのまのぬれあまもや人のちぬんてしをままめ

○何ゾもニイラヌガエテ ワシをさつら止ウト思フナラ 下コチノ心ヲトツ

クリトス定メテ上デニヤメルナラヤンガヨイ 上ヤノカ、ツテアル山ヤウ+

モノデコチノ心バドウチヤヤラ知レスマイニ カルクシウモウラ止タノハア  
アメリケカラヌキモノツブレターヤノ 人ハあつて何々このモウアツル  
ハ得ル 燐材結句のてしを湯に洗ハシテおぼろぎすの洗ハシ

伊勢

雑波多々<sup>ワタ</sup>のこもつらあり今ハあつてどうしたとへむ

○今迄ハ何デモフルウナツテシウタヲバ 雑波ノ名柄ノ格ニタトヘタヂヤカ其  
名柄ノ格モ 今又新シウ<sup>シウ</sup>名柄ヲヤ スレヤハヤウニ人ニアカレテ<sup>ル</sup>四イモノニ  
ナツテニウタワシガヲバモウ今デハ何ニタトモウツ 何モタトヘル物モナイ

よみ人あつて

まう先<sup>シ</sup>おぼろぎ<sup>シ</sup>なふぞ<sup>シ</sup>ハドウキ<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>か<sup>シ</sup>やのみ<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>あれ<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>き<sup>シ</sup>も<sup>シ</sup>ほ<sup>シ</sup>

○オレハ<sup>ジツ</sup>分<sup>タイ</sup>実<sup>カタ</sup>柝ニ堅ウオヲ持ツケレハ 何<sup>シ</sup>ノエ<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>ガアルゾ ソレデモナシ  
ニモチ<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>ハナイ 世<sup>シ</sup>ノ人<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>新<sup>シ</sup>ク<sup>シ</sup>置<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>乱<sup>シ</sup>レ<sup>シ</sup>タ<sup>シ</sup>ヤウ<sup>シ</sup>ニ<sup>シ</sup>乱<sup>シ</sup>レ<sup>シ</sup>テ<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>ウ<sup>シ</sup>ラ<sup>シ</sup>ツ<sup>シ</sup>ナ<sup>シ</sup>者<sup>シ</sup>モ<sup>シ</sup>ア<sup>シ</sup>レ  
ドソレデモサノミワレ<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>モ<sup>シ</sup>ナイ スレヤ実<sup>シ</sup>柝<sup>シ</sup>ニ<sup>シ</sup>タ<sup>シ</sup>シ<sup>シ</sup>ナム<sup>シ</sup>ブン<sup>シ</sup>ガ<sup>シ</sup>ソ<sup>シ</sup>ニ<sup>シ</sup>ヂ<sup>シ</sup>ヤ

あきうせ

何々その名<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>何<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>一<sup>シ</sup>か<sup>シ</sup>し<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>ど<sup>シ</sup>い<sup>シ</sup>ら<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>ひ<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>か<sup>シ</sup>も

○ナラソノ名<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>タツ<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>ガ<sup>シ</sup>ラ<sup>シ</sup>シ<sup>シ</sup>カラ<sup>シ</sup>ウ<sup>シ</sup> 名<sup>シ</sup>ラ<sup>シ</sup>ス<sup>シ</sup>レ<sup>シ</sup>バ<sup>シ</sup>名<sup>シ</sup>ガ<sup>シ</sup>タツ<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>シ<sup>シ</sup>リ<sup>シ</sup>ナ<sup>シ</sup>ガ<sup>シ</sup>ラ<sup>シ</sup>迷<sup>シ</sup>フ<sup>シ</sup>ノ<sup>シ</sup>ハ  
オレヒトリカ オレバカリヂヤナイ皆サウチヤ

ワケガアルト

何々のことハくもがいとこぬる男のくそを思ひてきこむとさう  
くそを或人のちうくのくそをきこむとくそふひんれどよそ

てはさよりのぬいそとさしと<sup>イ</sup>ほ<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>方<sup>コ</sup>は<sup>コ</sup>ふ<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>に<sup>コ</sup>例<sup>コ</sup>準<sup>コ</sup>し<sup>コ</sup>考<sup>コ</sup>て  
知<sup>コ</sup>べ<sup>コ</sup>し<sup>コ</sup>。餘<sup>コ</sup>材<sup>コ</sup>は<sup>コ</sup>河<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>浮<sup>コ</sup>け<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>か<sup>コ</sup>。い<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>記<sup>コ</sup>録<sup>コ</sup>せ<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>。

くそ

よそちが<sup>コ</sup>あ<sup>コ</sup>か<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>よ<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>し<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>た<sup>コ</sup>づ<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>ふ<sup>コ</sup>き<sup>コ</sup>く<sup>コ</sup>ば<sup>コ</sup>う<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>し<sup>コ</sup>  
○ソントコトハワシヤ後ニモラヌ スヤソヤウニ<sup>ニ</sup>ワシガイトコガワニ<sup>ニ</sup>モラヌヤウニ<sup>ニ</sup>  
ヨソナガラヌハソレヤホテ<sup>ニ</sup>デナイヤ<sup>ニ</sup>タ<sup>コ</sup>ウソ<sup>ニ</sup>ソヤウニ<sup>ニ</sup>ム<sup>コ</sup>バカリ<sup>ニ</sup>チヤ<sup>ニ</sup>ソ<sup>コ</sup>ガ<sup>ニ</sup>  
モシホソ<sup>ニ</sup>ナレ<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>ワシガ<sup>コ</sup>方<sup>ニ</sup>へ<sup>ニ</sup>何<sup>コ</sup>ト<sup>ニ</sup>ゾ<sup>ニ</sup>モ<sup>コ</sup>カ<sup>ニ</sup>ケ<sup>ニ</sup>サ<sup>ニ</sup>ウ<sup>ニ</sup>ナ<sup>ニ</sup>物<sup>ニ</sup>チヤ<sup>ニ</sup>ワ<sup>ニ</sup>サ<sup>ニ</sup>テ<sup>ニ</sup>  
ニ<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>ハ<sup>コ</sup>リ<sup>コ</sup>ハ<sup>コ</sup>ら<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>べ<sup>コ</sup>し<sup>コ</sup>。そ<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>云<sup>コ</sup>は<sup>コ</sup>く<sup>コ</sup>せ<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>ん<sup>コ</sup>だ<sup>コ</sup>浮<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>て<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>  
と<sup>コ</sup>ハ<sup>コ</sup>ら<sup>コ</sup>ぬ<sup>コ</sup>き<sup>コ</sup>ぬ<sup>コ</sup>し<sup>コ</sup>。餘<sup>コ</sup>材<sup>コ</sup>は<sup>コ</sup>河<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>浮<sup>コ</sup>け<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>か<sup>コ</sup>。い<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>記<sup>コ</sup>録<sup>コ</sup>せ<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>。  
五<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>ハ<sup>コ</sup>リ<sup>コ</sup>ハ<sup>コ</sup>ら<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>べ<sup>コ</sup>し<sup>コ</sup>。そ<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>云<sup>コ</sup>は<sup>コ</sup>く<sup>コ</sup>せ<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>ん<sup>コ</sup>だ<sup>コ</sup>浮<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>て<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>  
と<sup>コ</sup>ハ<sup>コ</sup>ら<sup>コ</sup>ぬ<sup>コ</sup>き<sup>コ</sup>ぬ<sup>コ</sup>し<sup>コ</sup>。餘<sup>コ</sup>材<sup>コ</sup>は<sup>コ</sup>河<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>浮<sup>コ</sup>け<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>か<sup>コ</sup>。い<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>記<sup>コ</sup>録<sup>コ</sup>せ<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>。

野<sup>コ</sup>ら<sup>コ</sup>ん

さぬき

た<sup>コ</sup>び<sup>コ</sup>あ<sup>コ</sup>ら<sup>コ</sup>と<sup>コ</sup>さ<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>は<sup>コ</sup>ら<sup>コ</sup>ひ<sup>コ</sup>ヤ<sup>コ</sup>ら<sup>コ</sup>し<sup>コ</sup>と<sup>コ</sup>て<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>浮<sup>コ</sup>け<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>か<sup>コ</sup>。い<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>記<sup>コ</sup>録<sup>コ</sup>せ<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>。  
○ソノヤウニメツタニ人ノミ<sup>コ</sup>テ<sup>コ</sup>ラ<sup>コ</sup>ハ<sup>コ</sup>入<sup>コ</sup>レ<sup>コ</sup>テ<sup>コ</sup>タ<sup>コ</sup>レ<sup>コ</sup>ニ<sup>コ</sup>モ<sup>コ</sup>カ<sup>コ</sup>レ<sup>コ</sup>ニ<sup>コ</sup>モ<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>ラ<sup>コ</sup>フ<sup>コ</sup>カ<sup>コ</sup>サ<sup>コ</sup>ニ<sup>コ</sup>イ<sup>コ</sup>ニ<sup>コ</sup>ハ<sup>コ</sup>ナ<sup>コ</sup>ゲ<sup>コ</sup>キ<sup>コ</sup>  
ガ<sup>コ</sup>レ<sup>コ</sup>ゲ<sup>コ</sup>ウ<sup>コ</sup>ナル<sup>コ</sup>デア<sup>コ</sup>ラ<sup>コ</sup>ウ<sup>コ</sup>イ<sup>コ</sup> 神<sup>コ</sup>と<sup>コ</sup>ヤ<sup>コ</sup>ら<sup>コ</sup>し<sup>コ</sup>材<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>て<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>て<sup>コ</sup>こ<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>  
稻<sup>コ</sup>掛<sup>コ</sup>大<sup>コ</sup>平<sup>コ</sup>が<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>く<sup>コ</sup>ト<sup>コ</sup>白<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>款<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>本<sup>コ</sup>小<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>て<sup>コ</sup>その<sup>コ</sup>本<sup>コ</sup>材<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>げ<sup>コ</sup>く<sup>コ</sup>て<sup>コ</sup>。  
杜<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>く<sup>コ</sup>と<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>こ<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>款<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>切<sup>コ</sup>て<sup>コ</sup>ぬ<sup>コ</sup>し<sup>コ</sup>。河<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>浮<sup>コ</sup>け<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>か<sup>コ</sup>。い<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>記<sup>コ</sup>録<sup>コ</sup>せ<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>。  
な<sup>コ</sup>け<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>く<sup>コ</sup>と<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>こ<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>款<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>切<sup>コ</sup>て<sup>コ</sup>ぬ<sup>コ</sup>し<sup>コ</sup>。河<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>浮<sup>コ</sup>け<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>か<sup>コ</sup>。い<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>記<sup>コ</sup>録<sup>コ</sup>せ<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>。  
い<sup>コ</sup>が<sup>コ</sup>い<sup>コ</sup>く<sup>コ</sup>と<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>こ<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>款<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>切<sup>コ</sup>て<sup>コ</sup>ぬ<sup>コ</sup>し<sup>コ</sup>。河<sup>コ</sup>の<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>浮<sup>コ</sup>け<sup>コ</sup>る<sup>コ</sup>か<sup>コ</sup>。い<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>ま<sup>コ</sup>を<sup>コ</sup>記<sup>コ</sup>録<sup>コ</sup>せ<sup>コ</sup>り<sup>コ</sup>。  
大<sup>コ</sup>浦

○イロクノ欵キガ少ヤウニツモツタバヤ、尾スレバヒタモノツ臂杖ヲツイテツムリ  
ヲ<sup>勢</sup>ケレヤウニサナルワイ、本と<sup>り</sup>来て<sup>き</sup>て<sup>き</sup>て送<sup>ま</sup>が杖とつくともて<sup>き</sup>て<sup>き</sup>て  
よみ人あ<sup>ら</sup>ん

なげきをばあるはれつみてわ<sup>い</sup>ひまの<sup>さ</sup>らうひるく<sup>り</sup>ぬ<sup>い</sup>づ<sup>ら</sup>り  
○<sup>ま</sup>ぬ<sup>は</sup>に<sup>は</sup>根<sup>に</sup>欵<sup>キ</sup>バツカリガツモツテ、<sup>レ</sup>ウ其カヒモナイ<sup>コ</sup>ニナルデアラウニ思ハル、  
人<sup>と</sup>つ<sup>ら</sup>く<sup>は</sup><sup>い</sup>ま<sup>を</sup>何<sup>し</sup>か<sup>る</sup>ひ<sup>を</sup>て<sup>わ</sup>く<sup>ご</sup>う<sup>き</sup>と<sup>を</sup>わ<sup>び</sup>かり<sup>ら</sup>ん

○<sup>ま</sup>を<sup>あ</sup>ラ<sup>ニ</sup>ナウタヤウニ<sup>ジ</sup>ユツナイ<sup>ま</sup>ラ<sup>ニ</sup>テソ<sup>ニ</sup>テイツア<sup>レ</sup>ルト云<sup>は</sup>れ<sup>モ</sup>ナイハサテ  
モ<sup>雅</sup>多<sup>ナ</sup>コ<sup>デ</sup>コソアレ、<sup>ア</sup>楞<sup>と</sup>何<sup>と</sup>か<sup>う</sup>よ<sup>と</sup>を<sup>り</sup>て<sup>あ</sup>ら<sup>う</sup>て<sup>ら</sup>ん

よ<sup>の</sup>よ<sup>ふ</sup>知<sup>て</sup>入<sup>る</sup>み<sup>う</sup>月<sup>の</sup>の<sup>れ</sup>て<sup>の</sup>思<sup>ふ</sup>ア<sup>ら</sup>れ<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>那  
○<sup>上</sup>コノゴロハアサテモくワリナイ相思ヒヲスル<sup>コ</sup>カナ

ふ<sup>と</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>バ<sup>か</sup>つ<sup>て</sup>か<sup>く</sup>も<sup>れ</sup>ば<sup>わ</sup>ら<sup>う</sup>ひ<sup>を</sup>ぬ<sup>ら</sup>う<sup>さ</sup>き<sup>ら</sup>ん

○ドウシタガヨカラウカカウシタガヨカラウカト、<sup>レ</sup>ウケテ定<sup>メ</sup>ニクイ<sup>コ</sup>ヲ、<sup>イ</sup>ロク<sup>ニ</sup>思<sup>葉</sup>レ  
テス<sup>テ</sup>ヨ<sup>イ</sup>レウケテ<sup>ラ</sup>ツ思<sup>ヒ</sup>ツイテ、<sup>サ</sup>ウ<sup>チ</sup>ヤト定<sup>メ</sup>テ、<sup>ニ</sup>を<sup>り</sup>ニス<sup>バ</sup>又<sup>一</sup>方<sup>ニ</sup>サシ  
ツカエガアリ、又<sup>三</sup>思<sup>葉</sup>ラカヘテ<sup>シ</sup>テ<sup>ス</sup>レバ、又<sup>二</sup>方<sup>ニ</sup>支<sup>ル</sup>コガアリ、トカク世<sup>中</sup>  
ノ<sup>う</sup>ハ<sup>ア</sup>ド<sup>ウ</sup>モナ<sup>ラ</sup>又<sup>モ</sup>チヤ、<sup>一</sup>方<sup>ガ</sup>ヨ<sup>ケ</sup>レ<sup>バ</sup>一<sup>方</sup>ガ<sup>ロ</sup>ル<sup>ウ</sup>テ、<sup>三</sup>の<sup>白</sup>下<sup>小</sup>  
と<sup>何</sup>り<sup>の</sup>よ<sup>と</sup>と<sup>を</sup>て<sup>ら</sup>ぬ<sup>べ</sup>し、上<sup>不</sup>解<sup>ら</sup>せ<sup>て</sup>け<sup>何</sup>を<sup>も</sup>ぶ<sup>ら</sup>ん  
物<sup>の</sup>被<sup>材</sup>ヨ<sup>レ</sup>何<sup>し</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>の</sup>は<sup>不</sup>古<sup>を</sup>甚<sup>す</sup>葉<sup>と</sup>い<sup>は</sup>る<sup>は</sup>あ<sup>ら</sup>ん、<sup>と</sup>い<sup>ふ</sup>て  
その<sup>中</sup>れ<sup>の</sup>い<sup>ふ</sup>び<sup>ど</sup>ふ<sup>を</sup>な<sup>げ</sup>ば<sup>あ</sup>ら<sup>ぬ</sup>を<sup>は</sup>く<sup>な</sup>り<sup>な</sup>ら<sup>ん</sup>  
○世<sup>中</sup>ノ<sup>ウ</sup>イ<sup>度</sup>ゴ<sup>ト</sup>ニ<sup>コ</sup>レ<sup>バ</sup>ト<sup>思</sup>フ<sup>テ</sup>人<sup>ガ</sup>オ<sup>ラ</sup>ナ<sup>ゲ</sup>タ<sup>ラ</sup>死<sup>骸</sup>ガ<sup>カ</sup>ビ  
タ<sup>ニ</sup>シ<sup>ウ</sup>ツ<sup>モ</sup>ツ<sup>テ</sup>味<sup>イ</sup>谷<sup>ガ</sup>サ<sup>浅</sup>ウ<sup>ナル</sup>デア<sup>ラ</sup>ウ<sup>ワイ</sup>は<sup>根</sup>ニ<sup>ウ</sup>イ<sup>コ</sup>ノ<sup>多</sup>イ<sup>世</sup>中<sup>ナ</sup>レ<sup>バ</sup>

左系ゆゑか

の中ハいふととあやうきあらのふ恨らゆれを

○人ゴトニ世ノ中ハウイおぢヤクト云テ恨ミルサウ数万人人ニ恨ミラ  
ル、トナレバ世中及ハサゾヤメイワクニ思ウデアラウ

トみ人あふ

ほをちておれいづつふ老ぬむと平のおもむきをさき

○オレハア何ヲシテハヤウニ年ヨツターヤラ  
身ニツモツタ<sup>シ</sup>齡ノ思フトコロガサハツカシイ

たきこうぞ

オハもつろをだやもさつはじつひおひらうさうとあふ

○トテモ立オナドモエセバ此オハモウ毎  
心バカリナリ氏大切ニ持テステコンジヤウニナルマイグ  
ヤウニナルフトストケルヤウニサ

ちちや

あゝ君のどのふつがオハうぬきでゆきぬおとら

○あオハ此ヤウニ年ヨツテトモカモ大ニチガウタケレ  
ヤツハリ若イ時方ヲヌワイ

野々々

トみ人あふ

うきのを嘆てれ梅のみたれやとさおのこのつらき  
○梅ノ花ノ咲テチワテニウク<sup>ル</sup>実ハ酸イおぢヤガオレハも梅ノ実チ

ヤラシテ人が誰<sup>の</sup>デモオレ<sup>ス</sup>ススキモノチヤクト云 酸<sup>ス</sup>きと好色<sup>スキ</sup>ととめて  
ほを中一がふおん一由一とさるる日さるる山のあひか  
さげぶらうふと成<sup>ル</sup>影<sup>シ</sup>そとふを流<sup>ル</sup>る

みつこ

ふびーらふまーらふききそと門のふれうひあさるまやばらうぬ

○様ヨミ給ニ雅<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>サウニアリナクナイ 今日<sup>ハ</sup>はをリニあくモ法皇<sup>極</sup>  
ノ伊<sup>幸</sup>ガカテハ山ノカウシテアヒカヒガアルデハナイカアリガタイ日チヤ  
グヨ今日ハ

影<sup>ル</sup>るべ

よみ人あしど

そといひるのなとんまよりとらうやーとあのおまきまぬまり

○此衣ハ世ライトウテ一所不<sup>住</sup>ノ傍<sup>ノ</sup>イツ<sup>毎</sup>モドコナリトユキガリニ木ノカ  
ゲ立<sup>寄</sup>テハ常<sup>ナ</sup>ドモトカズツイミ得<sup>テ</sup>森<sup>ル</sup>五倍<sup>子</sup>漆<sup>ノ</sup>麻<sup>ノ</sup>衣<sup>デ</sup>ゴザル  
うつぢーとハ神代<sup>紀</sup>ニ全<sup>剥</sup>とあ<sup>る</sup>全<sup>ク</sup>日<sup>ド</sup>くてもあ<sup>る</sup>ふて  
とりまらゆらゆら同じうつひきふ臥<sup>ス</sup>ハわ<sup>る</sup>ん又<sup>お</sup>けふ五<sup>倍</sup>  
子<sup>シ</sup>づつろろ物<sup>ろ</sup>あふらや<sup>し</sup>とふとあ<sup>る</sup>もい<sup>は</sup>る  
全<sup>ク</sup>脚<sup>シ</sup>を五<sup>倍</sup>子<sup>シ</sup>小<sup>つ</sup>ひ<sup>ひ</sup>けた<sup>る</sup>あ<sup>る</sup>と。能<sup>得</sup>ふハるる

古今和歌集卷第二十を撰

大歌原抄歌

ふやなるひのう

ゆきしき年のいづれふかきしそふ年とて後てなりしきとて先

○行末千年ニテモ 毎年トシノ始メニハ 三 けりニサタニイ事ヲ存分

ニシラサウロイ をへ先ハ終りて極むる 是先の時ハふ年まで

とていひてかくのていふきつとてつむらうとて

日本紀ハはくすうのふ代までふ

ゆききやまきまひらう

うしゆふらうさふよふる若れまぬく時多くありやゆら

○上 葛城山ハ冬ハ雪ノフラヌト云ハナイガ ソノ葛城山ノ雪ノトホリテ

ワシハイツトモナニニジャウキウ君ノガ思ヒテサテモ忘レルヒモノナイトカナ

あつとぬり

あつとよりあきたならんまじう後の中ふらづも時々のぬこのあハ

○近江カラ今般夜内ニ立テクバウ子野ニテ鶴ガトクワサア夜ハモウアケルダ

みづぐまき

みづぐまの星れながふ妹とてまてし後そのおけのまねなりハと

○山城国ハ岡屋縣デ 妹トオレト燕テ夜ノアケタ今般ノアノ事ノフリヤウ

ワイノミア アノ事ヲ見バ 昨夜ハキツクヒエタサウナ コチハ二人子タデニホド

ヒル夜チヤトモ思ハナシデア アつとまてて星の枕返しおふ考へあり

又古ふ形を形といふとさふは 打すまじり 彼流のこてくハ

はの白祿でーおけをどわーさうぬいし 子林云ふがまきの考おうつ

あつとぬり







アレ網半デ船ヲ引テユクアノケレキガドウモイヘタぬデハナイ オモ  
シロイコトヂヤワラア

ミダせら成みやとふやアとしほぐまのまぐれの時のもんぞをき

○コチノ人ヲ京ヘヤツテ 留守ヂウ イウモドラル、トヤラト 三四

待テ居レバサテモ恋シイ

をくらぐれにみみのこ一箇のくろくろのほろふいごしてまき成

○アノま侍ノニツノ小侍ガ人ナラ 赤ノミヤゲニイザ赤イトネテツテイ

ナウモヲをくらぐれのをハをまらせまのをまて、お侍とのみ地を

みまうひひくことまうせまぬおのあれトあはぬふまをわつと

○<sup>オササヒ</sup>侍<sup>シ</sup>元<sup>シ</sup> ソレ<sup>オササ</sup>ま<sup>ト</sup>ヤ<sup>レ</sup>上<sup>サ</sup>ワ<sup>シ</sup>ヤ<sup>レ</sup>ひまぬおノ木カラオチルオハケシ

カラヌモノデ 雨ヨリモキツウヌヒスゾエ

ゆがも川のをまぐらぐらつるまぐれつらやをわびおの月こまかり

○上 イヤデハナイガ け月中ハドウモナラヌ

のちれぐらぐらひのちりもあまばぐらぐらもあまをいふ

君とちきしてわいしとまらぐりのこまれま川山ほもくらえらむ

○ドウエーガアヲタイネテモ オマヘヲオイトワハ外へ心ヲウラスコトデハナイモシラン

ナ心ヲワシガ持ッダラ アノ末ノ松山ノウヘラ浪ガユエルデアラウ ツチヂハナ

イナヂヤサテ 末の松山とらへらまをまのまの松山をえし

さかぐらぐら

小よらぎの破くらぬじつをぬつむ免げぬまぬけよをまは

○小ヨロギノ夜へ出て居テ破菜ヲツムア子供ガアしく信ニレル浪ヨコヤ  
ソノヤウニアノ子供ヲスラスナ沖方へ折レヨ 又ハ立テコズニ沖方ニ居レ  
をせハ折をぬよ折もさ折ま折じ 又信のたらのむどもいも品もま折ま折じ

切〜ち〜

ほくもほ絲のこのもほめも小住いあれどほ君がみうごふもほ陰ハなし

○筑波山ノアチラウラニモコチラウラニモ木ノカゲハオビタニウニゲウアレ

ドモ 君ノ心ほ産ニニサツタカゲハナイ

つくはほ絲ほ女ほのほのみぢほ紫ほあほつほりほあほるほもほあほぬほもほあほでほあほりほ

○ハツクハ山ノおほ紫ノチツテツモツタラほ足バ惜ウ大チニ思ハルガテウドハほ  
紫ラ思フトホリニハ常陸ノ小内ノ百姓ハドレカトエラほタテナニコトバクフビニ

太切ニ思ハルニヨマア 上ウハほ結ほ白ほれほかほりほもほとほりほ之ほかほれほたほとほ  
くほさほくほあほるほもほあほぬほもほあほでほとほりほ細ほハ上ウハほ産ほ紫ほのほたほのほ方ほへほもほ  
あほづほうほびほはほあほるほくほせほぎほハほヤほガほれほぬほしほまほてほけほりほ何ほ人ほのほいほるほおほ  
りほとほもほあほるほふほうほさほざほらほあほれほれほバほ結ほ白ほのほ譯ほもほもほまほるほりほ小ほ  
よりほてほうほらほまほとほ今ほハほあほづほくほあほりほ何ほ人ほのほ民ほとほあほるほいほひほるほ  
りほ小ほとほりほてほ譯ほらほりほさほらほハほ系ほ人ほのほあほるほもほもほまほるほいほひほるほハほ  
そほのほあほりほとほとほとほしほ万ほ家ほのほ東ほ方ほのほ中ほもほもほあほるほりほ 破ほ材ほ  
コほらほーほ又ほおほけほ子ほ女ほのほ男ほとほ思ほつほとほんほとほれほさほらほいほひほるほーほとほ  
まほらほーほバほのほ白ほハほぬほもほかほれほもほらほいほひほもほまほるほれほどほあほるほもほとほ  
らほぬほもほあほるほとほハほあほまほりほ産ほくほーほとほ切ほ〜ほけほりほ



あゝ糸ニ鏡ル本ト之ニ本ニ書ラ入レ心ヲ滅ス今ニ別ニ書シ之ヲ  
まき才十 物名部

むぐー

ほーゆき

とぬくまふまひくらーいほーひまのふのやぶむこよびとらひあり

○拙人が材木ヲヒクサウチ アヒ豆ガキウウヒイテ大ゼイノゴエガスルワ

左ニ郭ス下ニ空際上ニ

くらおん

かまうとも何をうごめのもきてもえむういほのわしおらふじおを

○死ニ久クノ魂マガワララをヒテ又カワツテ来テモ 何ヲ見ヤウツ何モ是レ物ハ

ナイ ジブシノ死骸ハヤイテニウテ灰ニナツタモノ

をうもるは本を別下

らまのおも

ほーゆき

あゝぬくまひつをまばなまめあもくげふのそんくくさあか那

○ユニフカタニナレバア、今ハいハ豆フ人ノ来タジブシヤガト哀シウ思フテ居レバ

其人ガヒタスラ面紅ニエエテカテモ今コラアルクヤウニスエルーカナ

あま利欠下

あまのわ みやこどぬ をのくこまら

おきれわて身とわくよりもかろきまみやこまへのおれなりうらと

○カラダへ熾オキ火スヲ居テあ身ヲヤクヨリモカナシイハ京ト嶋ヘトノ別レチヤワ

下白ハ身ノ人乃系より。修べしと云々  
別色をうぐやぶし。

かきと 後形下

そえどの あそこ 所やゆら

うねめをばいそめとのこぞのがもゆるここの所をうらぬに

○ 敵ラハ今 卅ノ中ノウイヲラバトニトガレテヨラニエテ せう 伊山ノ下  
引越テユキマス 所をうらハ 深くうらむ 万葉ニ小あそびあそ  
ひをうらるといふも 深くうらむと云ふは けしき けしき けしき  
すのどし 但し 深敷と 粟田と 川の縁もあきて 地をうらるとい  
らひて 野ふらうらふの 深くうらむの けしき けしき けしき

うらうらとせむせむし されたのけしき せむせむし せむせむし  
あのみどのけしき せむせむし されたのけしき せむせむし せむせむし  
けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき  
また甲きけしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

巻第十一

奥山の夏の狼志のぎと云々 夏のト

うらうらとせむせむし せむせむし せむせむし せむせむし せむせむし

○ 今日オシガ入ヲ無シウセフ穴 大井川ノ流レル水ニオトラヌクラ井チヤワイ

うらうらとせむせむし せむせむし せむせむし せむせむし せむせむし

○ 上 ワシハ色ニモ洞ニモ出サズニ心デバツカリマア 恋シウセフテクラス

サテモシキナコトカナ

カキナナナ

悪しくハキコトを思へば家のト

つぬうこれとこの山うらつちや川いざこころよこが名ゆり

○モシ人カ問タナラ上ソニナードウヂヤカシラヌト云チヤゾ必我名ヲモ

ラスデハナイグ オサツ小万葉のけあどととれたるやうにうたたり

訓もあがり万葉よあるハいささを寸許キコ伊余名告奈ワガナノラスナト

あうらとほどききせいのこまこつな目ト

けあはるあそのみうどのほろのうみへおぼへると

かつし

うねへのよそまつきる

ふしらのまねのたまのきになふんのあうぐコガまひえやも  
まきオナナ

あつてよこのそのみや秋をうてト

さうらとむめのひよりわてみうどをといたてまうりて

コガせこぐくさうひちうりさてぶのくものあまひひてあうーも

○コヨヒハ必出カアラウト思ハレ夜チヤアレアク蛛ノスル一テサウチヤトス一

ガサキヘヨウニルワア 蛛をささぶとらハ蟹カニ小蟹チヒサ小蟹チヒサト

源を父志しとたがむけくむとなくむト

あうく

道あうバはらむもゆきさみあえのあふあうとあうすれあ



○道ヲシテ居ルナラ 住ノ江ノ家ニエテアルトイフニテラリスル忘ヌラ  
 ツミニテモユカウ 其ノ之ヲ其ノ之ニ成ルルニシテカクニ  
 夫ノ事トモキルルニ又其ノ事トモキルルニシテカクニ  
 其ノ事トモキルルニ又其ノ事トモキルルニシテカクニ  
 其ノ事トモキルルニ又其ノ事トモキルルニシテカクニ  
 其ノ事トモキルルニ又其ノ事トモキルルニシテカクニ

を讀ムノ事ニ於テ

明治八年十二月廿日版權免許

著述者

度會縣平民

本居宣長

第九大區飯高郡松  
 坂魚町五拾九番地

愛知縣平民

片野東四郎

第壹大區四小區玉屋  
 町三町目拾五番地

藏板人



